様式1−①

大学等名	桃山学院大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

経済学部経済学科、社会学部社会学科、社会学部ソーシャルデザイン学科、経営学部経営学科、国際教養学部英語・国際文化学科、法学部法律学科

③ 修了要件

共通教育機構が開講する基礎教育科目「学びの基礎（リテラシー）」区分の科目の内、「データサイエンス基礎」の2単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数　1 科目　2 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4．オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎	4-8データ活用実践（教師あり学習）		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「社会で起きている変化」 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」（1回目）
	1-6	「データ・AI 利活用の最新動向」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「社会で活用されているデータ」 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目） ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目）
	1-3	「データ・AIの活用領域」 ・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「データ・AIの活用のための技術」 ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIに出来ることと、出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目）
	1-5	「データ・AIの利活用の現場」 ・データサイエンスのサイクル「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目） ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」（2回目、3回目、4回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「データ・AIを扱う上での留意事項」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス基礎」(12回目、13回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス基礎」(12回目、13回目)
	3-2	「データを守る上での留意事項」 ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス基礎」(14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(14回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「データを読む」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データサイエンス基礎」(5回目、6回目) ・データのばらつき「データサイエンス基礎」(5回目、6回目) ・相関と因果「データサイエンス基礎」(7回目、8回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データサイエンス基礎」(7回目、8回目) ・統計情報の正しい理解「データサイエンス基礎」(5回目、6回目、7回目、8回目)
	2-2	「データを説明する」 ・データ表現「データサイエンス基礎」(6回目、7回目、8回目、9回目) ・データの図表表現「データサイエンス基礎」(6回目、7回目、8回目、9回目) ・データの比較「データサイエンス基礎」(6回目、7回目、8回目、9回目)
	2-3	「データを扱う」 ・データの集計「データサイエンス基礎」(9回目、10回目、11回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス基礎」(9回目、10回目、11回目) ・データ解析ツール「データサイエンス基礎」(9回目、10回目、11回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる
・データサイエンスの基礎知識を身につけ、それらを適切な場面で活用することができる
・課題解決のために適切にデータを取得して、分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、**「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」**(2024年2月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

様式1−②

大学等名	桃山学院大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科

③ 修了要件

ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科教育科目「データサイエンス入門」の2単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数　1 科目　2 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4．オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス入門	4-8データ活用実践（教師あり学習）		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「社会で起きている変化」 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス入門」（1回目）
	1-6	「データ・AI 利活用の最新動向」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「社会で活用されているデータ」 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目） ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目）
	1-3	「データ・AIの活用領域」 ・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「データ・AIの活用のための技術」 ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIに出来ることと、出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目）
	1-5	「データ・AIの利活用の現場」 ・データサイエンスのサイクル「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目） ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス入門」（2回目、3回目、4回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「データ・AIを扱う上での留意事項」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス入門」(12回目、13回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス入門」(12回目、13回目)
	3-2	「データを守る上での留意事項」 ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス入門」(14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス入門」(14回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「データを読む」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データサイエンス入門」(5回目、6回目) ・データのばらつき「データサイエンス入門」(5回目、6回目) ・相関と因果「データサイエンス入門」(7回目、8回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データサイエンス入門」(7回目、8回目) ・統計情報の正しい理解「データサイエンス入門」(5回目、6回目、7回目、8回目)
	2-2	「データを説明する」 ・データ表現「データサイエンス入門」(6回目、7回目、8回目、9回目) ・データの図表表現「データサイエンス入門」(6回目、7回目、8回目、9回目) ・データの比較「データサイエンス入門」(6回目、7回目、8回目、9回目)
	2-3	「データを扱う」 ・データの集計「データサイエンス入門」(9回目、10回目、11回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス入門」(9回目、10回目、11回目) ・データ解析ツール「データサイエンス入門」(9回目、10回目、11回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる
・データサイエンスの基礎知識を身につけ、それらを適切な場面で活用することができる
・課題解決のために適切にデータを取得して、分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、**「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」**(2024年2月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

様式2

桃山学院大学

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和5　年度

②大学等全体の男女別学生数　男性 4791 人　女性 2023 人　（ 合計 6814 人 ）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	1,513	360	1,440	26	22											26	2%
社会学部	1,524	360	1,440	5	4											5	0%
経営学部	1,224	295	1,110	19	9											19	2%
国際教養学部	1,069	275	1,100	15	5											15	1%
法学部	823	200	800	3	2											3	0%
ビジネスデザイン学部	661	200	670	177	119											177	26%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	6,814	1,690	6,560	245	161	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	245	4%

様式3

大学等名　桃山学院大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数　（常勤）　172　人　（非常勤）　281　人

② プログラムの授業を教えている教員数　2　人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）藤間　真　（役職名）データサイエンス教育運営会議

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

データサイエンス教育運営会議

（責任者名）藤間　真　（役職名）データサイエンス教育運営会議

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

桃山学院大学データサイエンス教育運営会議内規

⑥ 体制の目的

本学では、他者とのコミュニケーションを図る方法や、学業や社会活動で必要となる基礎的なアカデミックスキルを養うため、共通教育機構が開講する全学共通の基礎教育科目に「学びの基礎（リテラシー）」科目区分を設けている。この「学びの基礎（リテラシー）」科目区分の内、ITの基礎的な知識とスキルを習得することを目的とした「IT基礎」、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識とスキルを習得することを目的とした「データサイエンス基礎」等、本学における「データサイエンス教育」を適切かつ円滑に運営し、その充実・向上に資することを目的として共通教育機構の下に「データサイエンス教育運営会議（以下、会議）」を設置している。会議では、「データサイエンス教育」科目の開講、運営の他、その目的の達成度、運営の適切性を自己点検・評価し、学部の専門教育にも資するものとするため不断のプログラム改善を行うものとする。

⑦ 具体的な構成員

2023年度（令和5年度）データサイエンス教育運営会議構成員

議　長　藤間　真（経済学部　教授）
構成員　井田　憲計（経済学部　教授）
　　村上　あかね（社会学部　教授）
　　大田　靖（経営学部　教授）　※プログラム科目担当教員
　　森下　裕三（国際教養学部　准教授）
　　井口　祐貴（法学部　講師）
　　水谷　直樹（共通教育機構　教授）　※プログラム科目担当教員
事務局　高良　要多（教務課　課長補佐）
　　叶屋　真一（共通教育機構事務課）

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	4%	令和6年度予定	10%	令和7年度予定	15%
令和8年度予定	20%	令和9年度予定	25%	収容定員（名）	6,560

具体的な計画

「データサイエンス基礎」は全学共通科目として令和5年度より開講し、1年次からの初修科目として履修するように履修推奨している。また、本科目を完全なオンデマンド科目として開講し、時間割の制約を受けずに自律的学習ができるように開講している。更に、本科目を教育職員養成課程の「基礎資格に関する科目」の選択科目として位置づけ、課程履修生の受講を促している。

令和5年の実績では半期（秋学期）のみの開講であったことから、令和6年度については通期開講（春学期、秋学期）のため倍増以上の10%（650名）を目指す。また、令和6年度入学生向けカリキュラムから日本語教員養成課程の選択必修科目として位置づけたことで課程履修生の受講を促している。

年次進行のため、令和7年度以降には単年度の新規履修生が300名程度ずつ増えることを想定し、令和7年度15%（1,000名）、令和8年度20%（1,300名）、令和9年度25%（1,650名）を目標とする。各年度の具体的な方策は次のとおり。令和7年度：本学のデータサイエンティスト養成プログラム「SDP(スーパー・データサイエンス・プログラム)」の参加学生に対し、選択科目として履修推奨を行う。令和8年度：理系新学部設置を予定（設置申請構想中）しており、理系学部新入生への履修推奨を行う。令和9年度：前年度にプログラムの完成年度となることから、卒業生をロールモデルとする周知を行い履修推奨を行う。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「データサイエンス基礎」は全学部生を対象とし、1年次生から履修できる共通科目として開講している。特に、基礎的なアカデミックスキルの涵養を目的とした科目区分「基礎教育科目」の「学びの基礎（リテラシー）」に位置付け、「数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識とスキルを習得する」ことをカリキュラムのポリシーとしている。そのため、多くの学生が履修することを想定し、LMSを利用した完全なオンデマンド科目として設計し、学生が時間割の制約を受けずに自律的な学習によって単位修得できる環境を提供している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「データサイエンス基礎」の履修を促進するため、履修要項において「学びの基礎（リテラシー）」に位置付け、「数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識とスキルを習得する」ことを周知し、更に、各学部の科目一覧に科目名を明記している。また、通常の履修登録授業期間開始前に履修登録を促す、「予備登録科目」として履修を周知しており、開講初年次であった令和5年度秋学期以降、対象年次生にポータルサイトを通じて履修推奨を行った。
更に、本科目を教育職員養成課程の「基礎資格に関する科目」の選択科目、日本語教員養成課程の選択必修科目として位置づけ、各課程の履修要項に明記し受講を促している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「データサイエンス基礎」は本学のデータサイエンティスト養成プログラム「SDP(スーパー・データサイエンス・プログラム)」の科目を主体的に運営する、2名の教員が担当しており、共通シラバス、共通成績評価に基づき開講されている。LMSに保存された講義動画、資料、課題を元に、履修学生の自律的学習により個人個人の学習進度、学習理解度を求めることができる。また、15回の講義の内、14回の講義で学生に複数の問いからなる小課題の提出を求め、理解をより深いものとさせる定着方法をとっており、この課題への回答は自己点検・評価の際にも活用される。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「データサイエンス基礎」は完全なオンデマンド科目として開講されており、学生は履修期間中は常時、LMSに保存された講義動画、資料、課題を閲覧することが可能である。また、履修期間中に課される小課題に質問をすることや、授業全体に関する内容を質問できるコメントシート、LMSの「Q&A」機能を用いて質問をすることが可能であり、次の講義時にフィードバックしている。更に、担当教員のオフィスアワーを設定しているため、授業時間に関わらず学習指導を受けることができる。

様式4

大学等名　桃山学院大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

データサイエンス教育運営会議

（責任者名）藤間　　真　　（役職名）データサイエンス教育運営会議長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学部の学生に本プログラムの履修機会を提供するため、全学共通科目として「データサイエンス基礎」を開講した。開講初年次であった令和5年度は245名の履修があった。履修者の内、161名（65.7%）が単位修得に至っており、リテラシーレベルとして適切であったと考える。 本プログラムの履修の理由は「興味があった」が72.7%で学生の科目に対する学習意欲が高いことが伺える。また、本プログラムの履修を促すための対策である「完全オンデマンド化」について、「対面授業と同程度に知識は習得できたか」の項目では、54.5%が「そう思う」と回答し、「対面授業とオンデマンド型授業両方で開講されていた場合、どちらの形態を受講するか」の項目では、63.6%が「オンデマンド型」と回答しており、完全オンデマンド化に一定の需要と成果があったと考えている。
学修成果	受講学生アンケートの「この授業は、総合的に判断して有益な授業でしたか」の項目に対し、54.5%が「そう思う」と回答し、36.7%が「どちらかと言えばそう思う」と回答していることから、本プログラムの運営は総合的に適切であったと考える。 更に、自由記述の項目では「オンデマンドのため自分のペースで学習できた」、「後半は難しかったが、とても面白い授業であった」と好意的に評価する声が多いことからも開講初年次としての講義導入の目的は果たせたと考える。 ただし、次のステップに進みたいという声も一定数あることから、本プログラムからの発展的科目の開設についても今後の検討が必要であると考える。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	受講学生アンケートの「この授業をどのくらい理解できましたか」の項目に対し、回答者の45.5%が「良く理解できた」と回答し、残り54.5%も「まあまあ理解できた」と回答していることから、受講者に対する科目内容、レベルは適切であったと考える。 更に、「この授業に集中して取り組むことができましたか」の項目に対し、回答者の54.5%が「そう思う」と回答しており、授業は履修生が集中して取り組め、理解を得られる内容になっていたと考える。 ただし、自由記述において「難しい内容を理解する時間がかかった」、「全部は理解できなかったけど、ある程度分かった」等の難易度に関し「難しい」ととらえる声も一定数あることから、本プログラムの講義内容について、履修学生からの意見を集約、分析し、改善していくことが必要であると考える。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	受講学生アンケートの「この授業の受講を同級生や後輩にお勧めできますか」の項目に対し、54.5%が「そう思う」と回答し、27.3%が「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、81.8%が同級生や後輩に推奨できるとしており、本プログラムの履修が、今後、多くの学生に波及していくことが期待できる。 本プログラムの運営側が主体的となって履修推奨を取り進めることはもちろん、履修学生の実際の受講体験から得られた意見を学生に周知する活動が有効であろうと考えている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは令和5年度に開設され、初年度は秋学期3クラスで開講し、履修者が245名（4%）の実績となった。2年目である令和6年の春学期には1クラス開講で既に139名が履修し、昨年度実績の56.7%を満たしており、更に秋学期に3クラスを開講することから、目標である650名（10%）は十分に達成できる進捗である。 本学における履修登録は学期ごとに実施されることから、秋学期に向け、履修対象年次生への訴求によって、更なる履修者数の増加を目指したい。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和5年度に開設されたため、現状では教育プログラム修了者の進路等の情報は得られていないため、本項目について評価はできないが、修了者の進路等の情報は履修者数を増やし、本プログラムの内容精査、分析のために必要不可欠であると考えている。 そのため、学生の進路支援を主管する「キャリアセンター」と連携し、毎年実施している「卒業生アンケート」に質問項目を設ける等、調査・分析方法を確立する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムを実社会の現状に合わせ、実際のデータを得て、分析し得る体制が求められているとの認識から、「データサイエンス基礎」は、本学専任教員2名の他、多業種におよぶ産業界5社5名のゲスト講師によるオムニバス形式で開講されている。 履修学生からは講義の都度、課題提出と意見を求めており、ゲスト講師にも共有の上、講義内容に関する意見を収集している。得られた意見についてはプログラム運営母体である「データサイエンス教育運営会議」で共有され、本プログラムの内容の精査、改善に活用される。 ただし、産業界の外部評価者が科目を担当しているため、今後は第三者としての外部評価者の視点を導入する必要があると認識している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	リテラシーレベルのモデルカリキュラムに講義内容を展開しつつ、多業種5社5名の産業界からの実務者講師の協力を得て、実社会のデータについて学べる手法をとっており、履修学生が興味関心を得られるように科目内容を構成している。 受講者アンケートの「授業内容は、あなたの興味・関心を呼び起こしましたか」の項目に対し、回答者の91.2%が「そう思う」、「どちらかというとそう思う」と回答していることから、受講者の興味関心を触発させる内容であったと考えている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムの「データサイエンス基礎」を担当する2名の専任教員が講義全15回の内、14回において課題提出と意見を求めており、履修生から講義回ごとに意見を収集でき、即時、即応的に科目運営の改善ができたと考えている。講義は学生の理解度の状況を見て判断しつつ、進めていく必要があり、学生の意見を得たことで、これが可能となった。 対面授業において、学生の反応をみながら授業運営することと同じく、完全オンデマンドの本プログラムにおいては、意見の収集こそ改善に向けた重要な因子であると考えている。

シラバス参照

講義名	データサイエンス基礎　＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）			ナンバリングコード	LBAT1080
単位数	2 単位	旧科目名1		旧科目名2	
曜時1	土3	曜時2		担当教員名	大田　靖

研究室	聖アンデレ館9階915号室
オフィスアワー	火曜日2限
メールアドレス	yasushio@andrew.ac.jp

授業形態

講義	実習	アクティブラーニング
グループワーク	パソコン実習	

講義・演習概要

近年のデータ収集能力の向上とともに，さまざまな企業や自治体において利活用可能な大量データが蓄積され，競合他社に対する優位性を獲得することや政策・施策の効率的かつ計画的な運営・実施が重要な課題となっている．その中でも、経営・経済・金融・社会・法律・スポーツ健康などの文系学部において，それぞれの分野の専門分野の知識を身につけ，企業や自治体の課題を把握し，その解決に取り組むことができる実践型のデータサイエンティストの育成は社会的ニーズも高い．
本講義は，全学部の学生を対象としたデータサイエンスのリテラシーレベルの講義である．社会における様々な分野のデータの利活用例を紹介したうえで，データの整理，要約・視覚化の方法を解説し，またデータの予測方法として回帰分析の手法を解説する．さらに，データ利活用における注意事項として，調査・分析における注意，利用時の注意，さらに，情報倫理や情報セキュリティなどについても解説する．なお，講義はオンデマンド形式で実施される．

学習(到達)目標

本講義の学習目標は以下の3つである．
・社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる．
・データサイエンスの基礎知識を身につけ，それらを適切な場面で活用することができる．
・課題解決のために適切にデータを取得して，分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる．

講義・演習計画

第1回	はじめに，オリエンテーションとして，授業の進め方，授業内容，及び成績評価の方法を説明し，さらに表計算ソフトExcel，統計ソフトの利用について解説する． 次に，データで示す強み，データサイエンスの活用例について解説する．	第16回	
第2回	社会におけるデータの例1 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI の活用領域	第17回	
第3回	社会におけるデータの例2 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用のための技術	第18回	
第4回	社会におけるデータの例3 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用の現場と最新動向	第19回	
第5回	1変量のデータの要約と視覚化1 平均値の意味，平均値の弱点と中央値，散らばりを測る指標としての分散と標準偏差などについて事例を通して学ぶ．	第20回	
第6回	1変量のデータの要約と視覚化2 四分位数から分かること，箱ひげ図の利用方法，ヒストグラムで比較するなどについて事例を通して学ぶ．	第21回	
第7回	2変数のデータの要約と視覚化1 散布図を描こう，共分散の役割とは，相関係数でわかることなどについて事例を通して学ぶ．	第22回	
第8回	2変数のデータの要約と視覚化2 その関係本当に相関？，相関係数の注意−疑似相関・無相関・外れ値−，分割表の作成，オッズ比でわかることなどについて事例を通して学ぶ．	第23回	
第9回	未来を予測しよう～回帰分析の実践1～ 統計ソフトの利用方法を学ぶ．	第24回	

	回帰分析の例と考え方について学ぶ. 統計ソフトを用いて重回帰分析をしてみよう1		
第10回	未来を予測しよう～回帰分析の実践2～ 統計ソフトを用いて回帰分析をしてみよう2	第25回	
第11回	未来を予測しよう～回帰分析の実践3～ 回帰分析を通して，データの取得・分析・説明の手法を学ぶ.	第26回	
第12回	データ利活用における注意事項1 データを取得する際の注意	第27回	
第13回	データ利活用における注意事項2 データを分析する際の注意 データ分析の結果を説明する際の注意	第28回	
第14回	データ利活用における注意事項3 データ利活用の推進と法について 情報倫理と情報セキュリティについて	第29回	
第15回	まとめ これまでのまとめ 後学でのデータサイエンスの学び方について	第30回	

成績評価の方法

試験 :	60%	レポート :	20%	その他 :	20%
コメント :	試験: 60%（確認テスト:30%、評価テスト:30%） レポート: 20% その他: 20%（授業に対する積極的な姿勢、動画の視聴等） ①到達目標に対応する確認テストを実施する. 授業で解説したデータサイエンスの基礎的な知識とその活用法を身につけているかを評価する. ②毎回の授業後の課題レポート，コメントシートなどを評価する. ③適切な期間を設定し，総合的な評価テストを実施する. 詳細は，初回の授業時に指示する. 注意:授業はオンライン形式で行うため，理解の定着を促すために，「質疑応答」の機会を適宜設定することを計画している.				

テキスト

1.	著者	大田靖・宿久洋	ISBN	978-4407332841
	タイトル	事例でわかる統計シリーズ 教養のための統計入門	出版社	実教出版
	教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
2.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	
3.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

授業時に紹介する.

事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）

事前学習として，毎回の授業のテーマについて，テキスト，参考文献やインターネット等でその用語や内容について調べておくこと.
事後学習として，毎回の授業後に配布するプリントに解答し，次の授業時に提出すること.

その他備考(担当教員用)

キーワード

企業におけるデータサイエンス，ビッグデータ，社会におけるデータ，予測，実験・調査，アクティブラーニング，グループワーク

備考(管理者用)

遠隔授業（オンデマンド型）

印　刷　　閉じる

シラバス参照

講義名	データサイエンス基礎　02＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）			ナンバリングコード	LBAT1080
単位数	2 単位	旧科目名1		旧科目名2	
曜時1	土4	曜時2		担当教員名	水谷　直樹

研究室	聖アンデレ館6階619号室
オフィスアワー	火曜日5限
メールアドレス	mizutani@andrew.ac.jp

授業形態

講義	実習	アクティブラーニング
グループワーク	パソコン実習	

講義・演習概要

近年のデータ収集能力の向上とともに，さまざまな企業や自治体において利活用可能な大量データが蓄積され，競合他社に対する優位性を獲得することや政策・施策の効率的かつ計画的な運営・実施が重要な課題となっている．その中でも、経営・経済・金融・社会・法律・スポーツ健康などの文系学部において，それぞれの分野の専門分野の知識を身につけ，企業や自治体の課題を把握し，その解決に取り組むことができる実践型のデータサイエンティストの育成は社会的ニーズも高い．
本講義は，全学部の学生を対象としたデータサイエンスのリテラシーレベルの講義である．社会における様々な分野のデータの利活用例を紹介したうえで，データの整理，要約・視覚化の方法を解説し，またデータの予測方法として回帰分析の手法を解説する．さらに，データ利活用における注意事項として，調査・分析における注意，利用時の注意，さらに，情報倫理や情報セキュリティなどについても解説する．なお，講義はオンデマンド形式で実施される．

学習(到達)目標

本講義の学習目標は以下の3つである．
・社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる．
・データサイエンスの基礎知識を身につけ，それらを適切な場面で活用することができる．
・課題解決のために適切にデータを取得して，分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる．

講義・演習計画

第1回	【遠隔：オンデマンド】はじめに，オリエンテーションとして，授業の進め方，授業内容，及び成績評価の方法を説明し，さらに表計算ソフトExcel，統計ソフトの利用について解説する． 次に，データで示す強み，データサイエンスの活用例について解説する．	第16回	
第2回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例1 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI の活用領域	第17回	
第3回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例2 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用のための技術	第18回	
第4回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例3 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用の現場と最新動向	第19回	
第5回	【遠隔：オンデマンド】1変量のデータの要約と視覚化1 平均値の意味，平均値の弱点と中央値，散らばりを測る指標としての分散と標準偏差などについて事例を通して学ぶ．	第20回	
第6回	【遠隔：オンデマンド】1変量のデータの要約と視覚化2 四分位数から分かること，箱ひげ図の利用方法，ヒストグラムで比較するなどについて事例を通して学ぶ．	第21回	
第7回	【遠隔：オンデマンド】2変数のデータの要約と視覚化1 散布図を描こう，共分散の役割とは，相関係数でわかることなどについて事例を通して学ぶ	第22回	
第8回	【遠隔：オンデマンド】2変数のデータの要約と視覚化2 その関係本当に相関？，相関係数の注意−疑似相関・無相関・外れ値−，分割表の作成，オッズ比でわかることなどについて事例を通して学ぶ．	第23回	

第9回	【遠隔:オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践1～ 統計ソフトの利用方法を学ぶ. 回帰分析の例と考え方について学ぶ. 統計ソフトを用いて重回帰分析をしてみよう1	第24回	
第10回	【遠隔:オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践2～ 統計ソフトを用いて回帰分析をしてみよう2	第25回	
第11回	【遠隔:オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践3～ 回帰分析を通して，データの取得・分析・説明の手法を学ぶ.	第26回	
第12回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項1 データを取得する際の注意	第27回	
第13回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項2 データを分析する際の注意 データ分析の結果を説明する際の注意	第28回	
第14回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項3 データ利活用の推進と法について 情報倫理と情報セキュリティについて	第29回	
第15回	【遠隔:オンデマンド】まとめこれまでのまとめ 後学でのデータサイエンスの学び方について	第30回	

成績評価の方法

試験 :	60%	レポート :	20%	その他 :	20%
コメント :	試験: 60%(確認テスト:30%、評価テスト:30%) レポート: 20% その他: 20%(授業に対する積極的な姿勢、動画の視聴等) ①到達目標に対応する確認テストを実施する. 授業で解説したデータサイエンスの基礎的な知識とその活用法を身につけているかを評価する. ②毎回の授業後の課題レポート，コメントシートなどを評価する. ③適切な期間を設定し，総合的な評価テストを実施する. 詳細は，初回の授業時に指示する. 注意:授業はオンライン形式で行うため，理解の定着を促すために，「質疑応答」の機会を適宜設定することを計画している.				

テキスト

1.	著者	大田靖・宿久洋	ISBN	978-4407332841
	タイトル	事例でわかる統計シリーズ 教養のための統計入門	出版社	実教出版
	教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
2.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	
3.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

授業時に紹介する.

事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）

事前学習として，毎回の授業のテーマについて，テキスト，参考文献やインターネット等でその用語や内容について調べておくこと.
事後学習として，毎回の授業後に配布するプリントに解答し，次の授業時に提出すること.

その他備考(担当教員用)

キーワード

企業におけるデータサイエンス，ビッグデータ，社会におけるデータ，予測，実験・調査，アクティブラーニング，グループワーク

備考(管理者用)

印　刷　　閉じる

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門　＜秋＞			ナンバリングコード	LBAT1160
単位数	2 単位	旧科目名1		旧科目名2	
曜時1	火3	曜時2		担当教員名	大田　靖

研究室	聖アンデレ館9階915号室
オフィスアワー	火曜日2限
メールアドレス	yasushio@andrew.ac.jp

授業形態

講義	実習	アクティブラーニング
グループワーク	パソコン実習	

講義・演習概要

近年のデータ収集能力の向上とともに，さまざまな企業や自治体において利活用可能な大量データが蓄積され，競合他社に対する優位性を獲得することや政策・施策の効率的かつ計画的な運営・実施が重要な課題となっている．その中でも、経営・経済・金融・社会・法律・スポーツ健康などの文系学部において，それぞれの分野の専門分野の知識を身につけ，企業や自治体の課題を把握し，その解決に取り組むことができる実践型のデータサイエンティストの育成は社会的ニーズも高い．
本講義は，全学部の学生を対象としたデータサイエンスのリテラシーレベルの講義である．社会における様々な分野のデータの利活用例を紹介したうえで，データの整理，要約・視覚化の方法を解説し，またデータの予測方法として回帰分析の手法を解説する．さらに，データ利活用における注意事項として，調査・分析における注意，利用時の注意，さらに，情報倫理や情報セキュリティなどについても解説する．なお，講義はオンデマンド形式で実施される．

学習(到達)目標

本講義の学習目標は以下の3つである．
・社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる．
・データサイエンスの基礎知識を身につけ，それらを適切な場面で活用することができる．
・課題解決のために適切にデータを取得して，分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる．

講義・演習計画

第1回	【遠隔：オンデマンド】はじめに，オリエンテーションとして，授業の進め方，授業内容，及び成績評価の方法を説明し，さらに表計算ソフトExcel，統計ソフトの利用について解説する． 次に，データで示す強み，データサイエンスの活用例について解説する．	第16回	
第2回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例1 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI の活用領域	第17回	
第3回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例2 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用のための技術	第18回	
第4回	【遠隔：オンデマンド】社会におけるデータの例3 社会で利活用されているデータついて学ぶ―データ・AI 利活用の現場と最新動向	第19回	
第5回	【遠隔：オンデマンド】1変量のデータの要約と視覚化1 平均値の意味，平均値の弱点と中央値，散らばりを測る指標としての分散と標準偏差などについて事例を通して学ぶ．	第20回	
第6回	【遠隔：オンデマンド】1変量のデータの要約と視覚化2 四分位数から分かること，箱ひげ図の利用方法，ヒストグラムで比較するなどについて事例を通して学ぶ．	第21回	
第7回	【遠隔：オンデマンド】2変数のデータの要約と視覚化1 散布図を描こう，共分散の役割とは，相関係数でわかることなどについて事例を通して学ぶ．	第22回	
第8回	【遠隔：オンデマンド】2変数のデータの要約と視覚化2 その関係本当に相関？，相関係数の注意−疑似相関・無相関・外れ値−，分割表の作成，オッズ比でわかることなどについて事例を通して学ぶ．	第23回	
第9回	【遠隔：オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践1～ 統計ソフトの利用方法を学ぶ．	第24回	

	回帰分析の例と考え方について学ぶ. 統計ソフトを用いて重回帰分析をしてみよう1		
第10回	【遠隔:オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践2～ 統計ソフトを用いて回帰分析をしてみよう2	第25回	
第11回	【遠隔:オンデマンド】未来を予測しよう～回帰分析の実践3～ 回帰分析を通して, データの取得・分析・説明の手法を学ぶ.	第26回	
第12回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項1 データを取得する際の注意	第27回	
第13回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項2 データを分析する際の注意 データ分析の結果を説明する際の注意	第28回	
第14回	【遠隔:オンデマンド】データ利活用における注意事項3 データ利活用の推進と法について 情報倫理と情報セキュリティについて	第29回	
第15回	【遠隔:オンデマンド】まとめ これまでのまとめ 後学でのデータサイエンスの学び方について	第30回	

成績評価の方法

試験 :	60%	レポート :	20%	その他 :	20%
コメント :	試験: 60%(確認テスト:30%、評価テスト:30%) レポート: 20% その他: 20%(授業に対する積極的な姿勢、動画の視聴等) ①到達目標に対応する確認テストを実施する. 授業で解説したデータサイエンスの基礎的な知識とその活用法を身につけているかを評価する. ②毎回の授業後の課題レポート, コメントシートなどを評価する. ③適切な期間を設定し, 総合的な評価テストを実施する. 詳細は, 初回の授業時に指示する. 注意:授業はオンライン形式で行うため, 理解の定着を促すために,「質疑応答」の機会を適宜設定することを計画している.				

テキスト

1.	著者	大田靖・宿久洋	ISBN	978-4407332841
	タイトル	事例でわかる統計シリーズ 教養のための統計入門	出版社	実教出版
	教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
2.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	
3.	著者		ISBN	
	タイトル		出版社	
	教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

授業時に紹介する.

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)

事前学習として, 毎回の授業のテーマについて, テキスト, 参考文献やインターネット等でその用語や内容について調べておくこと.
事後学習として, 毎回の授業後に配布するプリントに解答し, 次の授業時に提出すること.

その他備考(担当教員用)

キーワード

企業におけるデータサイエンス, ビッグデータ, 社会におけるデータ, 予測, 実験・調査, アクティブラーニング, グループワーク

備考(管理者用)

遠隔授業（オンデマンド型）

印　刷　　閉じる

③令和５年度の「認定教育プログラム」が全学部等に開講されていることが分かる資料

「桃山学院大学履修規程」に規定されており、全学部に開講されている。

・「付表1(その1):基礎教育科目履修要領(ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科を除く)」（7頁）においてビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科を除く全学部において「データサイエンス基礎」が基礎教育科目として開講されていることを示す。（記載頁：10頁）

・「付表4B：ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科教育科目履修要領」（48頁）において「データサイエンス入門」が学科教育科目として開講されていることを示す。（記載頁：50頁）

○桃山学院大学履修規程

1960年(昭和35年)1月25日

教授会承認

第1章　総則

第1条　卒業資格を得るための履修は、学則第19条から第25条までの規定の定めるところによる。

2　学則およびこの規程の適用は、原則として入学当時のものによる。

第2章　履修

(卒業資格)

第2条　卒業資格を得るためには、付表1(その1)、付表1(その2)、付表2A、付表3A、付表3B、付表4A、付表4B、付表5および付表6に基づき卒業必要単位数124単位以上(随意科目を含まない)を修得しなければならない。

(教育職員養成課程)

第3条　教育職員養成課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

(司書教諭課程)

第4条　司書教諭課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

(司書課程)

第5条　司書課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

（博物館学芸員課程）

第6条　博物館学芸員課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

（社会福祉士受験資格課程）

第7条　社会福祉士受験資格課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

（精神保健福祉士受験資格課程および介護福祉士資格課程）

第8条　精神保健福祉士受験資格課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

第8条の2　介護福祉士受験資格課程については、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。なお、各科目の単位修得については、授業回数の3分の2（介護実習は5分の4）以上の出席を必要とする。

（日本語教員資格）

第9条　本学が認定する日本語教員資格を得るためには、別に定めるところに従って履修しなければならない。ただし、修得した単位数は、経済学部、社会学部、経営学部および法学部については、別に指定する科目を除き、卒業に必要な単位数に含まれない。

（年次別履修単位数）

第10条　学生は、各年次48単位および各学期26単位を超えて履修することはできない。

2　前項にかかわらず、社会学部ソーシャルデザイン学科の学生は、各年次48単位および各学期32単位をそれぞれ超えて履修することはできない。

3　前二項にかかわらず、経済学部、社会学部（ソーシャルデザイン学科を除く）、経営学部、国際教養学部、法学部、ビジネスデザイン学部へ編入学、転入学および学士入学した学生は、各年次48単位および各学期26単位、社会学部ソーシャルデザイン学科へ編入学、転入学および学士入学した学生は、各年次48単位および各学期32単位を超えて履修することはできない。

4　前三項にかかわらず、随意科目および教務委員長が特に認めたものについてはこの限りではない。

5　本条第1項および第2項にかかわらず、第2年次終了時で、「S」・「A」・「Ⓐ」と評価された科目（随意科目を含む）の単位数の合計が、60単位以上の場合は、第3年次に上限単位数の48単位を超えて52単位まで履修することができる。また、各学期については、32単位を超えて履修す

ることはできない。ただし、ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科の学生は、第2年次終了時の「S」・「A」・「Ⓐ」と評価された科目の単位数にかかわらず、第3年次の上限単位数は、48単位を超えて履修することはできない。

(受講)

第11条　学科目を履修するためには、その学科目の講義、演習および実習を受講しなければならない。

第12条　同一時間に開講されている二つ以上の学科目を同時に受講、履修することはできない。

(受講制限)

第13条　各講義は、その内容、教室の都合等により、受講資格を限定し、また受講人員を制限することがある。

(選択受講および講義指定)

第14条　同じ学科目につき二つ以上の講義が開講されているときは、そのうちいずれか一つの講義を選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講すべき講義を特に指定しているときはこの限りではない。

(開講基準)

第15条　設置学科目の中には年度により開講されないものがある。

2　開講した学科目において、受講人員が10名に満たない場合には、閉講されることがある。

(再履修)

第16条　すでに単位を修得した学科目は、再履修することができない。

第17条　合格しなかった学科目は、特に定めるものを除き、第10条に定める年次別履修単位の範囲内で再履修することができる。

(履修登録)

第18条　受講および履修のためには、指定の期間内に履修登録を行わなければならない。

2　履修登録をしていない学科目の履修は、たとえ受講しても無効とする。

3　指定の期間内に履修登録をしない者は、当該年度の開講科目を履修ならびに受験することができない。

4　正当と認められる理由に基づき、指定期間内に履修登録ができない場合は、あらかじめその理由を付して教務課に届け出なければならない。

5　第2条付表1(その1)、付表1(その2)、付表2A、付表3A、付表3B、付表4A、付表4B、付表5、および付表6の年次別履修学科目および第10条の年次別履修単位数の制限の規定に反して履修登録を行った場合は、当該学科目についての履修登録は承認されない。

6　履修登録に不明確な部分がある場合は、当該部分の履修登録は承認されない。

（履修登録の変更）

第19条　いったん履修登録をした後においては、正当な理由なしに変更、追加または取り消しをすることはできない。

第3章　単位の修得

（単位の修得）

第20条　一つの学科目の単位を修得するためには、その学科目を履修し、かつ合格しなければならない。

2　合格しなかった場合、その学科目の単位を修得するためには、その学科目を再履修しなければならない。

第4章　試験および成績

（試験）

第21条　試験は研究報告または論文等をもってこれに代えることができる。

2　試験において不合格になった学科目に対する再試験は行わない。

（試験時間）

第22条　試験時間は、原則として60分とする。

（受験資格）

第23条　次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

1．授業料を指定期間内に納入していないとき

2．履修登録をしていないとき

3．休学期間が長期にわたるとき

4．受験に際し有効な学生証を携帯していないとき

5．試験開始時刻に遅刻したとき

（受験心得）

第24条　学生は受験に際して「受験の注意事項」を厳守しなければならない。

（成績）

第25条　成績は、原則として試験その他本学が定める方法によってこれを評価する。

第26条　学則第37条に定める成績評価は、次の基準によるものとする。

1．S　100点から90点まで

2．A　89点から80点まで

3．B　79点から70点まで

4．C　69点から60点まで

5．D　59点以下(不合格)

2　前項に対するグレードポイントとして、Sは4.0、Aは3.0、Bは2.0、Cは1.0、Dは0.0とする。

3　学籍簿に記入された成績は、これを変更することはできない。

(追試験)

第27条　春学期末試験および秋学期末試験を受けることができなかった者に対しては、本人の願い出により教務委員会で検討のうえ、正当な理由があると認められた場合、追試験届を提出させ追試験を行うことがある。ただし、当該学科目の試験当日から5日以内に証明書を付して欠席届を教務課に提出しなければならない。

第28条　追試験は、健康・スポーツ学演習を除く学科目について実施することを原則とする。

第29条　春学期追試験の期日は8月初旬、秋学期追試験の期日は2月中旬とする。

第30条　追試験受験料は1科目につき1,000円とし、一度納めた追試験受験料は返還しない。ただし、公共交通機関の事故、公認欠席により試験を受けることができなかった者で所定の手続きを済ませた者については、本条の規定にかかわらず追試験受験料を徴収しない。

(改廃)

第31条　この規程の改廃は、学部教授会の議を経て学長が行う。

付　則

この規程は、1959年(昭和34年)4月1日から施行する。

この規程は、1966年(昭和41年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1968年(昭和43年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1971年(昭和46年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1973年(昭和48年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1975年(昭和50年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1977年(昭和52年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1983年(昭和58年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1984年(昭和59年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1988年(昭和63年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1989年(平成元年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1990年(平成2年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1991年(平成3年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1992年(平成4年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1993年(平成5年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1995年(平成7年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1996年(平成8年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1997年(平成9年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、1998年(平成10年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、2000年(平成12年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、2002年(平成14年)4月1日から改訂施行する。

この規程は、2003年(平成15年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2004年(平成16年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2005年(平成17年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2006年(平成18年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2007年(平成19年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2008年(平成20年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2009年(平成21年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2010年(平成22年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2011年(平成23年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2011年(平成23年)10月12日に改訂を決議し、2011年(平成23年)4月1日に遡ってこれを施行する。ただし、付表1(その3)の「災害ボランティアⅠ」「災害ボランティアⅡ」「災害ボランティアⅢ」「災害ボランティアⅣ」については、2004年度(平成16年度)入学生から適用する。

この規程は、2012年(平成24年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2013年(平成25年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2014年(平成26年)4月1日からこれを改訂施行する。ただし、第10条第5項については、2012年度(平成24年度)入学生から適用する。付表2Bについては、2013年度(平成25年度)入学生から適用する。

この規程は、2015年(平成27年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2016年(平成28年)4月1日からこれを改訂施行する。

この規程は、2017(平成29)年4月1日からこれを改訂施行する。(年次別履修可能単位数の変更ならびに科目に係る変更にともなう改訂)

なお、年次別履修可能単位数の変更にともなう経過措置として、第10条各項の規定は、2016(平成28)年度以前の学生にも適用する。ただし、年次別履修可能単位数が減少する場合は、この限り

ではない。

この規程は、2018(平成30)年4月1日から改訂施行する。(科目に係る変更および事務組織改編等により一部変更)

この規程は、2019(平成31)年4月1日からこれを改訂施行する。(経営学部ビジネスデザイン学科の設置、国際教養学部のコース再編、科目に係る変更および事務組織改編等による)

この規程は、2020(令和2)年4月1日からこれを改訂施行する。(編・転入学生の履修上限単位数変更、共通教育カリキュラムの再編および科目に係る変更、経営学部ビジネスデザイン学科の履修要件の変更等による)

なお、経営学部ビジネスデザイン学科の科目に係る変更にともなう措置として、付表4Bについては、2019(平成31)年度の学生にも適用する。

この規程は、2021(令和3)年4月1日からこれを改訂施行する。(経営学部ビジネスデザイン学科の廃止、ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科の開設、科目に係る変更、経済学部経済学科中国ビジネスキャリアコースに関する文言削除等による)

この規程は、2022(令和4)年4月1日からこれを改訂施行する。(社会学部社会福祉学科の社会学部ソーシャルデザイン学科への名称変更、科目に係る変更による)

なお、ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科の科目による変更および年次変更に係る措置として、付表4Bについては、2019(平成31)年度以降の学生にも適用する。

この規程は、2023(令和5)年4月1日からこれを改訂施行する。(国際教養学部教育課程(科目区分およびコース編成)に係る改訂、科目に係る変更および改廃条項の追加による)

なお、ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科の科目に係る変更にともなう措置として、付表4Bについては、2019(平成31)年度以降の学生にも適用する。

この規程は、2024(令和6)年4月1日からこれを改訂施行する。(科目に係る変更による)

この規程は、2024(令和6)年4月1日からこれを改訂施行する。(令和4年度大学設置基準の改正に係る変更、ビジネスデザイン学部の年次別履修単位数の変更、ビジネスデザイン学部での編入学制度の新設、科目に係る変更、予備登録の名称変更、およびスーパーデータサイエンスプログラムの設置に伴う科目編成等による)ただし、第10条第3項については、2024(令和6)年度入学生から適用する。

付表1(その1):基礎教育科目履修要領(ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科を除く)

1. 建学の精神

授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数

キリスト教と桃山学院大学	2	1～		2単位以上
世界の市民	2	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	

2．学びの基礎　外国語科目

類別	授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数
英語	英語ⅠA	1	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	4単位 経済学部経済学科・社会学部ソーシャルデザイン学科・経営学部経営学科・法学部法律学科必修
	英語ⅠB	1	1～		
	英語ⅡA	1	1～		
	英語ⅡB	1	1～		
英語	英語ⅠA	1	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	8単位 社会学部社会学科必修
	英語ⅠB	1	1～		
	英語ⅡA	1	1～		
	英語ⅡB	1	1～		
	英語ⅢA	1	2～	○2年次に指定されたクラスを履修	
	英語ⅢB	1	2～		
	英語ⅣA	1	2～		
	英語ⅣB	1	2～		
英語	英語ⅠA	1	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	8単位 国際教養学部必修
	英語ⅠB	1	1～		
	英語ⅡA	1	1～		
	英語ⅡB	1	1～		
	英語ⅢA	1	1～		
	英語ⅢB	1	1～		
	英語ⅣA	1	1～		
	英語ⅣB	1	1～		
日本語	日本語Ⅰa	1	1～	○外国人留学生は日本語Ⅰa・b、Ⅱa・bを履修しな	4単位 外国人留学生・帰国生
	日本語Ⅰb	1	1～		

	日本語Ⅱa	1	1～	ければならない	(経済学部経済学科・社
	日本語Ⅱb	1	1～	○帰国生は原則として日本語Ⅰa・b、Ⅱa・bを履修することが望ましい ※ただし、特に認められた場合は他の言語に変更できる ○抽選・選考科目 ○Ⅰa・b、Ⅱa・bは1年次に指定されたクラスを履修	会学部ソーシャルデザイン学科・経営学部経営学科・法学部法律学科)必修
日本語	日本語Ⅰa	1	1～	○外国人留学生は日本語Ⅰa・b、Ⅱa・b、Ⅲa・b、Ⅳa・bを履修しなければならない ○帰国生は原則として日本語Ⅰa・b、Ⅱa・b、Ⅲa・b、Ⅳa・bを履修することが望ましい ※ただし、特に認められた場合は他の言語に変更できる ○抽選・選考科目 ○Ⅰa・b、Ⅱa・bは1年次に指定されたクラスを履修 ○Ⅲa・b、Ⅳa・bは2年次に指定されたクラスを履修	8単位 外国人留学生・帰国生(社会学部社会学科)必修
	日本語Ⅰb	1	1～		
	日本語Ⅱa	1	1～		
	日本語Ⅱb	1	1～		
	日本語Ⅲa	1	2～		
	日本語Ⅲb	1	2～		
	日本語Ⅳa	1	2～		
	日本語Ⅳb	1	2～		

3．学びの基礎　リテラシー

授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数
大学レポート入門	2	1～	○抽選・選考科目	0単位以上
プレゼンテーション基礎	2	1～	○抽選・選考科目	

IT基礎	2	1～	○抽選・選考科目		
データサイエンス基礎	2	1～	○抽選・選考科目		

付表1(その2)：教養教育科目履修要領(ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科を除く)

類別		授業科目	単位	履修年次	履修可能学部・学科						備考	卒業必要単位数	
					経済	社会	ソーシャルデザイン	経営	国際	法			
教養教育科目	人間への着目	キリスト教学A	2	1～	○	×	○	○	○	○		2単位以上	16単位以上
		キリスト教学B	2	1～	○	×	○	○	○	○			
		キリスト教史A	2	2～	○	○	×	○	×	○			
		キリスト教史B	2	2～	○	○	×	○	×	○			
		キリスト教音楽Ⅰ	2	2～	○	○	○	○	×	○	○抽選・選考科目		
		キリスト教音楽Ⅱ	2	2～	○	○	○	○	×	○	○抽選・選考科目		
		思想と文化	2	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		哲学	4	1～	○	○	○	○	○	○			
		倫理学	4	1～	○	○	○	○	○	○			
		西洋文化史A	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		西洋文化史B	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		アジア文化史A	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		アジア文化史B	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		総合人間学A	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		総合人間学B	2	2～	○	○	○	○	×	○			

		日本文化史A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		日本文化史B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		民俗学A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		民俗学B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		文学	2	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		言語学概論A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		言語学概論B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		応用言語学概論A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		応用言語学概論B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		言語と社会A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		言語と社会B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		日本語学概論	4	2～	○	○	○	○	×	○		
		日本語文法論	4	2～	○	○	○	○	×	○		
		歴史学	2	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		日本史	4	1～	○	○	○	○	○	○		
		外国史	4	1～	○	○	○	○	○	○		
		東洋史	4	1～	○	○	○	○	○	○		
		考古学概論A	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		考古学概論B	2	2～	○	○	○	○	×	○		
		地理学概論	4	1～	○	○	○	○	○	○		
		地誌	4	1～	○	○	○	○	○	○		
	社会への視点	法学A	2	1～	○	○	○	○	○	○		2単位以上
		法学B	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		憲法A	2	1～	○	○	○	○	○	×		
		憲法B	2	1～	○	○	○	○	○	×		
		民法A1	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		民法A2	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		民法B1	2	2～	○	○	○	○	○	×		

		民法B2	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		働くことと法知識	2	1～	○	○	○	○	○	×		
		国際法A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際法B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		知的財産法A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		知的財産法B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		労働法A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		労働法B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		ジェンダー法学A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		ジェンダー法学B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		税法A	2	2～	○	○	○	×	○	×		
		税法B	2	2～	○	○	○	×	○	×		
		政治学A	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		政治学B	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		国際関係論A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際関係論B	2	2～	○	○	○	○	○	×	○「国際関係論A」の単位をすでに修得した者のみ履修可	
		国際政治史A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際政治史B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際機構論A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際機構論B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際政治事情研究A	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		国際政治事情研究B	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		地域研究ＩA	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		地域研究ＩB	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		地域研究ⅡA	2	2～	○	○	○	○	○	×		
		地域研究ⅡB	2	2～	○	○	○	○	○	×		

		経済学A	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		経済学B	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		経済入門	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		日本経済史Ⅰ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		日本経済史Ⅱ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		西洋経済史Ⅰ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		西洋経済史Ⅱ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		日本経済論Ⅰ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		日本経済論Ⅱ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		世界経済事情Ⅰ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		世界経済事情Ⅱ	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		地域経済論Ⅰ	2	2～	×	○	×	×	○	○		
		地域経済論Ⅱ	2	2～	×	○	×	×	○	○		
		比較経済体制論Ⅰ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		比較経済体制論Ⅱ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		アジア経済論Ⅰ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		アジア経済論Ⅱ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		日中ビジネス論	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		経営学A	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		経営学B	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		簿記	2	1～	×	○	○	×	○	○		
		中級簿記	4	1～	×	○	○	×	○	○		
		経営管理論	2	2～	×	○	×	×	○	○		
		経営組織論	2	2～	×	○	×	×	○	○		
		経営史A	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		経営史B	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		コーポレート・ファイナンス(基礎)	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		コーポレート・ファイナンス(応用)	2	2～	○	○	○	×	○	○		

	証券論	4	2～	○	○	○	×	○	○			
	保険論	2	2～	×	×	○	×	○	○			
	会計史	2	2～	○	○	○	×	○	○			
	国際会計論	2	2～	○	○	○	×	○	○			
	財務会計論(基礎)	2	2～	○	○	○	×	○	○			
	財務会計論(応用)	2	2～	○	○	○	×	○	○			
	社会学A	2	1～	○	○	○	○	○	○			
	社会学B	2	1～	○	○	○	○	○	○			
	コミュニケーション論［2］	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	メディア史	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	マス・コミュニケーション論	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	広報の社会学	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	教育社会学A	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	教育社会学B	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	スポーツ社会学	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	身体文化論	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	地域社会学	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	地域再生論	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	宗教社会学	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	宗教学概論	2	1～	○	×	○	○	○	○			
	ジェンダー論	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	働き方とジェンダー	2	1～	○	×	×	○	○	○			
	国際社会福祉論	2	2～	○	×	×	○	○	○			
	ボランティア論	2	2～	○	×	×	○	○	○			
	ボランティアコーディネート論	2	2～	○	○	×	○	○	○			
科	健康・スポーツ科	2～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる	2単	

	学	学講義									場合は複数履修可	位以
	へ	健康・スポーツ科学演習	2～4	1～	○	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目 ○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	上
	の	健康・スポーツ科学実習	1～2	1～	○	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目 ○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
	扉	障害者スポーツ論A	2	1～	○	○	×	○	○	○		
		障害者スポーツ論B	2	1～	○	○	×	○	○	○		
		心理学A	2	1～	○	×	○	○	○	○		
		心理学B	2	1～	○	×	○	○	○	○		
		IT活用a	2	1～	×	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目	
		IT活用b	2	1～	×	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目	
		コンピュータ論Ⅰ	2	2～	×	○	○	×	○	○		
		コンピュータ論Ⅱ	2	2～	×	○	○	×	○	○		
		学術情報資源流通の歴史と現状	2	2～	○	○	○	○	○	○		
		情報サービス応用	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		情報管理	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		ネットワーク論	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		マルチメディア論	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		情報と職業Ⅰ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		情報と職業Ⅱ	2	2～	×	○	○	○	○	○		
		数理科学入門	2	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		自然科学入門	2	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		産業考古学	4	2～	○	○	○	○	○	○		

		科学技術史	4	2～	○	○	○	○	×	○		
		環境問題概論	2	1～	○	×	○	○	○	○		
		サステイナビリティ論	2	1～	○	×	○	○	○	○		
		科学思想史	4	1～	○	×	○	○	○	○		
		SDP入門セミナー	2	1～	○	○	○	○	○	○	○スーパーデータサイエンスプログラム参加学生対象 ○1年次に指定されたクラスを履修	
		データサイエンスと価値共創	2	1～	○	○	○	○	○	○	○スーパーデータサイエンスプログラム参加学生対象 ○抽選・選考科目	
		データサイエンス入門	2	1～	○	○	○	×	○	○		
		データサイエンス入門演習	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		データサイエンス演習Ⅰ	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		データサイエンス演習Ⅱ	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		データサイエンスPBL	4	3～	○	○	○	○	○	○		
		経営学のための数学	2	1～	○	○	○	×	○	○		
		経営学のための統計	2	2～	○	○	○	×	○	○		
		経済学のための数学入門	2	1～	×	○	○	○	○	○		
		プログラミング演習	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	

											○スーパーデータサイエンスプログラム参加学生対象 ○抽選・選考科目		
		ビジネスのためのICT活用	2	1～	○	○	○	○	○	○	○スーパーデータサイエンスプログラム参加学生対象 ○抽選・選考科目		
		ビジネスのためのプレゼンテーション	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		データサイエンス海外演習	2～4	3～	○	○	○	○	○	○			
	未来への挑戦	プレゼンテーション応用	2	1～	○	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目	0単位以上	
		キャリア教育科目	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可 ○副題によっては抽選・選考科目となる		
		初修外国語Ⅰ	2	1～	○	○	○	○	×	○	○6言語の中から1言語を選択しなければならない ○同一言語のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣをⅠから履修しなければならない ○初修外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・韓国語・日本語)は抽選・選考科目(同一科目の複数履修不可) ○授業形態はa・bの1週2		
		初修外国語Ⅱ	2	1～	○	○	○	○	×	○			
		初修外国語Ⅲ	2	2～	○	○	○	○	×	○			
		初修外国語Ⅳ	2	2～	○	○	○	○	×	○			

										講時の授業で、単位認定はa・b一括で認定される	
	国際交流特別講義	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
	日本事情A (外国人留学生用)	2	1～	○	○	○	○	○	○		
	日本事情B (外国人留学生用)	2	1～	○	○	○	○	○	○		
	日本語Ⅲa	1	2～	○	×	○	○	×	○	○外国人留学生・帰国生対象 ○抽選・選考科目	
	日本語Ⅲb	1	2～	○	×	○	○	×	○		
	日本語Ⅳa	1	2～	○	×	○	○	×	○		
	日本語Ⅳb	1	2～	○	×	○	○	×	○		
	英語ＩA(外国人留学生用)	1	1～	○	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目 ○同一科目の複数履修不可 ○但し、英語ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣBについて国際教養学部は1年次より履修可	
	英語ＩB(外国人留学生用)	1	1～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅡA(外国人留学生用)	1	1～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅡB(外国人留学生用)	1	1～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅢA(外国人留学生用)	1	2～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅢB(外国人留学生用)	1	2～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅣA(外国人留学生用)	1	2～	○	○	○	○	○	○		
	英語ⅣB(外国人留学生用)	1	2～	○	○	○	○	○	○		
	Academic English RⅠ	2	1～	○	○	○	○	○	○	○抽選・選考科目	

		Academic English RⅡ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Academic English OCⅠ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Academic English OCⅡ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Academic English W	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Academic English P	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEFLⅠ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEFLⅡ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEFLⅢ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅠ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅡ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅢ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅣ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅤ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		TOEICⅥ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Business English Ⅰ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Business English Ⅱ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Business English Ⅲ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		English TodayⅠ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		English TodayⅡ	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Literature	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Japanese Culture	2	1～	○	○	○	○	○	○		
		Comparative	2	1～	○	○	○	○	○	○		

		Cultures											
		教職概論	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		教育学概論	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		教育心理学	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		教育法規	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		教育経営学	2	2～	○	○	○	×	○	○			
		人権教育論A	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		人権教育論B	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		教育情報メディア活用論	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		職業指導	4	1～	○	○	○	○	○	○			
		図書館・博物館への誘い	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		図書館情報学原論	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		生涯学習概論	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		博物館概論	2	1～	○	○	○	○	○	○			
		博物館教育論	2	2～	○	○	○	○	○	○			
		東洋美術史	4	2～	○	○	○	○	○	○			
		日本語教育事情	2	1～	○	○	○	○	×	○			
		教養教育特別講義	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可 ○副題によっては抽選・選考科目となる		
		地域連携特別講義	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可 ○副題によっては抽選・選考科目となる		
		学外研修	1～4	1～	○	○	○	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		

付表2A：経済学部経済学科教育科目履修要領

類別		授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数	
基礎教育科目	建学の精神		—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	6単位以上
	学びの基礎	外国語科目	—	—	付表1(その1)の2参照	4単位	
		リテラシー	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以上	
教養教育科目			—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	学科選択科目	入門演習	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない	66単位以上	
		基礎演習	2	1のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない		
		コース導入講義	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない		
		コース演習Ⅰ	2	2のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない		
		コース演習Ⅱ	2	2のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない		
		経済基礎A	2	1～			
		経済基礎B	2	1～			
		経済学のための数学入門	2	1～			
		世界経済事情Ⅰ	2	1～			
		世界経済事情Ⅱ	2	1～			
		経済学史Ⅰ	2	1～			
		経済学史Ⅱ	2	1～			
		日本経済史Ⅰ	2	1～			
		日本経済史Ⅱ	2	1～			
		西洋経済史Ⅰ	2	1～			
		西洋経済史Ⅱ	2	1～			

		経済情報処理論Ⅰ	2	1～		
		経済情報処理論Ⅱ	2	1～		
		法情報学	4	1～		
		統計学総論Ⅰ	2	1～		
		統計学総論Ⅱ	2	1～		
		日本経済論Ⅰ	2	1～		
		日本経済論Ⅱ	2	1～		
		社会思想史Ⅰ	2	1～		
		社会思想史Ⅱ	2	1～		
		日本近代史Ⅰ	2	1～		
		日本近代史Ⅱ	2	1～		
		簿記	4	1～		
		経済学特講	1～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		経済学部生のための英語Ⅰ	2	2～	○13科目のうち4単位以上を修得しなければならない ○アジアで学ぶ英語とビジネスⅠ・Ⅱ・Ⅲ、English Camp、アジアビジネスインターンシップⅠ、経済データサイエンス演習Ⅰa・Ⅰbは抽選・選考科目	
		経済学部生のための英語Ⅱ	2	2～		
		アジアで学ぶ英語とビジネスⅠ	2	2～		
		アジアで学ぶ英語とビジネスⅡ	4	2～		
		アジアで学ぶ英語とビジネスⅢ	2	2～		
		English Camp	2	2～		
		アジアビジネスインターンシップⅠ	2	2～3		
		コンピュータ論Ⅰ	2	2～		
		コンピュータ論Ⅱ	2	2～		
		経済データサイエ	2	1～		

		ンス演習Ⅰa				
		経済データサイエンス演習Ⅰb	2	1～		
		ファイナンスⅠ	2	2～		
		ファイナンスⅡ	2	2～		
		ミクロ経済学	4	2～	○3科目のうち8単位以上を修得しなければならない	
		マクロ経済学	4	2～		
		経済原論	4	2～		
		経済成長論Ⅰ	2	2～		
		経済成長論Ⅱ	2	2～		
		景気循環論Ⅰ	2	2～		
		景気循環論Ⅱ	2	2～		
		計量経済学Ⅰ	2	2～		
		計量経済学Ⅱ	2	2～		
		行動経済学Ⅰ	2	2～		
		行動経済学Ⅱ	2	2～		
		経済政策Ⅰ	2	2～		
		経済政策Ⅱ	2	2～		
		現代資本主義論	2	2～		
		財政学Ⅰ	2	2～		
		財政学Ⅱ	2	2～		
		金融論Ⅰ	2	2～		
		金融論Ⅱ	2	2～		
		労働経済論Ⅰ	2	2～		
		労働経済論Ⅱ	2	2～		
		経済数学Ⅰ	2	2～		
		経済数学Ⅱ	2	2～		
		経済統計Ⅰ	2	2～		
		経済統計Ⅱ	2	2～		
		IT活用a	2	1～	○抽選・選考科目	

		IT活用b	2	1～	○抽選・選考科目	
		経済データサイエンス演習Ⅱa	2	2～		
		経済データサイエンス演習Ⅱb	2	2～		
		人工市場論Ⅰ	2	1～		
		人工市場論Ⅱ	2	1～		
		経済地理学Ⅰ	2	2～		
		経済地理学Ⅱ	2	2～		
		地方財政論Ⅰ	2	2～		
		地方財政論Ⅱ	2	2～		
		経済開発論Ⅰ	2	2～		
		経済開発論Ⅱ	2	2～		
		公共経済論Ⅰ	2	2～		
		公共経済論Ⅱ	2	2～		
		環境経済論Ⅰ	2	2～		
		環境経済論Ⅱ	2	2～		
		中小企業論Ⅰ	2	2～		
		中小企業論Ⅱ	2	2～		
		地域経済論Ⅰ	2	2～		
		地域経済論Ⅱ	2	2～		
		産業組織論Ⅰ	2	2～		
		産業組織論Ⅱ	2	2～		
		農業経済論Ⅰ	2	2～		
		農業経済論Ⅱ	2	2～		
		産業構造論Ⅰ	2	2～		
		産業構造論Ⅱ	2	2～		
		銀行論Ⅰ	2	2～		
		銀行論Ⅱ	2	2～		
		現代技術論Ⅰ	2	2～		

		現代技術論Ⅱ	2	2～		
		観光経済論	2	2～		
		都市政策論Ⅰ	2	2～		
		都市政策論Ⅱ	2	2～		
		比較経済体制論Ⅰ	2	2～		
		比較経済体制論Ⅱ	2	2～		
		国際環境政策Ⅰ	2	2～		
		国際環境政策Ⅱ	2	2～		
		国際金融論	2	2～		
		国際経済論Ⅰ	2	2～		
		国際経済論Ⅱ	2	2～		
		アジア産業論Ⅰ	2	2～		
		アジア産業論Ⅱ	2	2～		
		アジア経済論Ⅰ	2	2～		
		アジア経済論Ⅱ	2	2～		
		アジア共同体論	2	1～		
		ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	2～		
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	2～		
		アメリカ経済論Ⅰ	2	2～		
		アメリカ経済論Ⅱ	2	2～		
		中国経済論Ⅰ	2	2～		
		中国経済論Ⅱ	2	2～		
		日中ビジネス論	2	2～		
		中国企業論	2	1～		
		中国貿易投資事情	2	1～		
		アジアビジネスインターンシップ	2～8	1～	○抽選・選考科目 ○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	

		外国書講読	4	2～	○抽選・選考科目 ○経済学部経済学科、他学部・学科提供科目の中から1科目のみ履修可	
		コース特講	2～4	2～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		演習Ⅲ・Ⅳ	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	
		経営学史A	2	2～		
		経営学史B	2	2～		
		経営管理論	2	2～		
		経営組織論	2	2～		
		生産管理論A	2	2～		
		生産管理論B	2	2～		
		保険論	2	2～		
		国際経営論A	2	2～		
		国際経営論B	2	2～		
		ネットビジネス	2	2～		
		データ経営	2	2～		
		情報管理	2	1～		
		税務会計論	2	2～		
		税務戦略論	2	2～		
		産業社会学	2	1～		
		労働社会学	2	1～		
		産業心理学A	2	1～		
		産業心理学B	2	1～		
		社会政策総論	4	1～		
		環境社会学	2	1～		

		地域資源論	2	1～		
		会社法A	2	3～		
		会社法B	2	3～		
		手形法小切手法	2	3～		
		支払決済法	2	3～		
		商取引法Ⅰ	2	2～		
		商取引法Ⅱ	2	2～		
		経済法A	2	3～		
		経済法B	2	3～		
		行政法総論A	2	3～		
		行政法総論B	2	3～		
		行政法各論A	2	3～		
		行政法各論B	2	3～		
		情報システム論Ⅰ	2	2～		
		情報システム論Ⅱ	2	2～		
		データベース実習	2	2～	○抽選・選考科目	
		ネットワーク論	2	2～		
		ネットワーク実習	2	2～	○抽選・選考科目	
		マルチメディア論	2	2～		
		マルチメディア実習	2	2～	○抽選・選考科目	
		情報と職業Ⅰ	2	2～		
		情報と職業Ⅱ	2	2～		
		情報サービス応用	2	2～	○抽選・選考科目	
		経済学特別講義	2～4	2～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
合計						124単位以上

付表2B　削除

付表3A：社会学部社会学科教育科目履修要領

類別		授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数	
基礎教育科目	建学の精神		—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	10単位以上
	学びの基礎	外国語科目	—	—	付表1(その1)の2参照	8単位	
		リテラシー	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以上	
教養教育科目			—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	学科必修科目	社会学基礎講義	4	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	6単位	62単位以上
		社会調査入門	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
	学科選択科目	社会学科基礎演習	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修	56単位以上	
		社会学科ワークショップ	2	2のみ	○2年次に指定されたクラスを履修		
		社会学科文献演習	2	2のみ	○2年次に指定されたクラスを履修		
		演習	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修		
		量的調査入門	2	2～			
		データ解析実習	4	2～	○抽選・選考科目		
		社会調査実習	4	3～	○「社会調査入門」「量的調査入門」の単位をすでに修得した者のみが履修可		
		社会調査演習	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修		

					○社会学科のみ履修可		
		質的調査法入門	2	2～			
		社会統計学入門	2	2～			
		学生リーダー育成プロジェクト特殊演習A	2	1～			
		学生リーダー育成プロジェクト特殊演習B	2	1～			
		学生リーダー育成プロジェクト特殊演習C	2	2～			
		学生リーダー育成プロジェクト特殊演習D	2	2～			
		ピア・インテグレーター特殊演習A	2	2～			
		ピア・インテグレーター特殊演習B	2	2～			
		ピア・インテグレーター特殊演習C	2	3～			
		ピア・インテグレーター特殊演習D	2	3～			
		フィールドワーク演習	2	2～			
		社会学原論	4	1～			

		社会学史	4	1～			
		現代社会論	4	1～			
		社会心理学	2	1～			
		メディア・コミュニケーション論	2	1～			
		生活文化論	2	1～			
		ライフスタイルの社会学	2	1～			
		家族社会学	2	1～			
		現代家族論	2	1～			
		ジェンダー論	2	1～			
		働き方とジェンダー	2	1～			
		公的扶助論B	2	2～			
		保険論	2	2～			
		地域社会学	2	1～			
		地域再生論	2	1～			
		都市社会学	2	1～			
		現代都市論	2	1～			
		都市政策論Ⅰ	2	2～			
		都市政策論Ⅱ	2	2～			
		地域福祉論B	2	2～			
		文化社会学	2	1～			
		モダニティの社会学	2	1～			
		スポーツ社会学	2	1～			
		身体文化論	2	1～			
		文化人類学A	2	1～			
		文化人類学B	2	1～			

		宗教社会学	2	1～			
		宗教学概論	2	1～			
		教育社会学A	2	1～			
		教育社会学B	2	1～			
		心理学A	2	1～			
		心理学B	2	1～			
		社会病理学	2	1～			
		比較社会論	4	1～			
		産業社会学	2	1～			
		労働社会学	2	1～			
		産業心理学A	2	1～			
		産業心理学B	2	1～			
		労働経済論	4	1～			
		労使関係論	2	1～			
		社会階層論	2	1～			
		格差社会論	2	1～			
		社会問題論	2	1～			
		経済社会学	2	1～			
		社会政策総論	4	1～			
		社会保障論B	2	2～			
		社会運動論	2	1～			
		市民社会とメディア	2	1～			
		ボランティア論	2	2～			
		国際社会福祉論	2	2～			
		コミュニケーション論	2	1～			
		メディア史	2	1～			
		マス・コミュニケーション論	2	1～			

		広報の社会学	2	1～			
		デザイン文化論	2	1～			
		視覚メディア論	2	1～			
		マス・コミュニケーション特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		音楽社会学	2	1～			
		映像メディア論A	2	2～			
		映像メディア論B	2	2～			
		メディアリテラシー論A	2	2～			
		メディアリテラシー論B	2	2～			
		世界のメディアA	2	2～			
		世界のメディアB	2	2～			
		メディアアーカイブ実習	4	2～			
		映像制作実習	4	2～			
		メディア制作実習	2～4	2～			
		メディア文化特論	2～4	2～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		情報社会論	2	1～			
		デジタル・メディア論	2	1～			
		日本文化論	2	1～			
		日本文化へのア	2	1～			

		プローチ					
		キリスト教学A	2	1～			
		キリスト教学B	2	1～			
		環境問題概論	2	1～			
		サステイナビリティ論	2	1～			
		環境社会学	2	1～			
		地域資源論	2	1～			
		環境経済論Ⅰ	2	2～			
		環境経済論Ⅱ	2	2～			
		科学思想史	4	1～			
		社会学特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		現代生活論特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		国際社会特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		現代文化特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		外国書講読	4	2～	○抽選・選考科目 ○社会学部社会学科および他学部・学科提供科目の中から1科目のみ履修可		
合計						124単位以上	

付表3B：社会学部ソーシャルデザイン学科教育科目履修要領

類別		授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数	
基礎教育科目	建学の精神		—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	6単位以上
	学びの基	外国語科目	—	—	付表1(その1)の2参照	4単位	
		リテラシー	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以	

	礎					上	
教養教育科目			—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	学科必修科目	社会福祉原論A	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	4単位	62単位以上
		社会福祉原論B	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
	学科選択科目	ソーシャルデザイン基礎演習A	1	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	58単位以上	
		ソーシャルデザイン基礎演習B	1	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
		実習準備講座A	1	2～	○抽選・選考科目 ○「ソーシャルデザイン基礎演習A」「ソーシャルデザイン基礎演習B」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		実習準備講座B	1	2～	○抽選・選考科目 ○「実習準備講座A」「ソーシャルワーク演習ⅠA」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		ソーシャルワーク論ⅠA	2	1～			
		ソーシャルワーク論ⅠB	2	1～			
		ソーシャルワーク論ⅡA	2	2～			
		ソーシャルワーク論ⅡB	2	2～			
		ソーシャルワーク論ⅢA	2	3～			
		ソーシャルワーク論ⅢB	2	3～			
		ソーシャルワーク演習	1	2～	○抽選・選考科目		

		ＩA					
		ソーシャルワーク演習ＩB	1	2～	○抽選・選考科目 ○「ソーシャルワーク演習ＩA」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		ソーシャルワーク演習ⅡA	1	3～	○抽選・選考科目 ○介護福祉士受験資格課程以外の学生は「実習準備講座B」「ソーシャルワーク演習ＩB」「ソーシャルワーク論ＩA」「ソーシャルワーク論ＩB」の単位をすでに修得した者のみ履修可 ○介護福祉士受験資格課程の学生は「ソーシャルデザイン基礎演習A」「ソーシャルデザイン基礎演習B」「ソーシャルワーク演習ＩB」「ソーシャルワーク論ＩA」「ソーシャルワーク論ＩB」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		ソーシャルワーク演習ⅡB	1	3～	○抽選・選考科目 ○「ソーシャルワーク演習ⅡA」の単位をすでに修得した者のみ		

					履修可		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	3～	○抽選・選考科目 ○介護福祉士受験資格課程以外の学生は「実習準備講座B」「ソーシャルワーク演習ⅠB」「ソーシャルワーク論ⅠA」「ソーシャルワーク論ⅠB」の単位をすでに修得した者のみ履修可 ○介護福祉士受験資格課程の学生は「ソーシャルデザイン基礎演習A」「ソーシャルデザイン基礎演習B」「ソーシャルワーク演習ⅠB」「ソーシャルワーク論ⅠA」「ソーシャルワーク論ⅠB」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	3～			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	3～			
		地域福祉論A	2	2～			
		地域福祉論B	2	2～			
		医学入門	2	1～			
		高齢者福祉論	2	1～			
		障害者福祉論A	2	1～			
		障害者福祉論B	2	1～			
		子ども家庭福祉論	2	2～			
		社会保障論A	2	2～			
		社会保障論B	2	2～			

		公的扶助論A	2	2～			
		公的扶助論B	2	2～			
		スピリチュアルケアA	2	2～			
		スピリチュアルケアB	2	2～			
		精神医学と精神医療A	2	1～			
		精神医学と精神医療B	2	1～			
		精神保健A	2	2～			
		精神保健B	2	2～			
		精神保健福祉の原理A	2	1～			
		精神保健福祉の原理B	2	2～			
		精神保健福祉制度論	2	2～			
		精神障害リハビリテーション論	2	2～			
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	2	2～			
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)B	2	2～			
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	3～	○抽選・選考科目		
		精神保健福祉援助演習ⅡA	1	4～	○抽選・選考科目		
		精神保健福祉援助演習ⅡB	1	4～	○抽選・選考科目		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	4～	○抽選・選考科目		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4～	○抽選・選考科目		
		人間関係とコミュニケーション	4	1～			
		生活支援論	2	1～			

		介護の基本Ⅰ	2	1～	○抽選・選考科目		
		介護の基本ⅡA	2	2～	○抽選・選考科目		
		介護の基本ⅡB	2	3～	○抽選・選考科目		
		介護の基本ⅢA	2	3～	○抽選・選考科目		
		介護の基本ⅢB	2	4～	○抽選・選考科目		
		コミュニケーション技術A	1	2～	○抽選・選考科目		
		コミュニケーション技術B	1	2～	○抽選・選考科目		
		生活支援技術Ⅰ	2	1～	○抽選・選考科目		
		生活支援技術Ⅱ	2	1～	○抽選・選考科目		
		生活支援技術Ⅲ	2	2～	○抽選・選考科目		
		生活支援技術Ⅳ	2	2～	○抽選・選考科目		
		生活支援技術Ⅴ	2	3～	○抽選・選考科目		
		介護過程Ⅰ	2	1～	○抽選・選考科目		
		介護過程ⅡA	2	2～	○抽選・選考科目		
		介護過程ⅡB	2	2～	○抽選・選考科目		
		介護過程Ⅲ	4	3～	○抽選・選考科目		
		介護総合演習ⅠA	1	2～	○抽選・選考科目		
		介護総合演習ⅠB	1	2～	○抽選・選考科目		
		介護総合演習ⅡA	1	3～	○抽選・選考科目		
		介護総合演習ⅡB	1	3～	○抽選・選考科目		
		発達と老化の理解A	2	2～			
		発達と老化の理解B	2	2～			
		認知症の理解A	2	2～			
		認知症の理解B	2	2～			
		障害の理解A	2	2～			
		障害の理解B	2	2～			
		医療的ケアA	1	4～	○抽選・選考科目		
		医療的ケアB	1	4～	○抽選・選考科目		

		ソーシャルデザイン専門演習	4	3のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない		
		ソーシャルデザイン卒論演習	4	4のみ	○同一教員・テーマで3・4年次継続履修		
		演習	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修		
		国際社会福祉論	2	2～			
		ボランティア論	2	2～			
		ボランティアコーディネート論	2	2～			
		保健医療論	2	2～			
		社会福祉サービス論	2	2～			
		人間発達論A	2	2～			
		人間発達論B	2	2～			
		介護演習	1	2～			
		臨床心理学A	2	2～			
		臨床心理学B	2	2～			
		レクリエーションワークA	2	1～			
		レクリエーションワークB	2	1～			
		野外レクリエーション実習	1	1～			
		障害者スポーツ論A	2	1～			
		障害者スポーツ論B	2	1～			
		社会福祉フィールドワーク	2	1～			
		福祉レクリエーション	2	1～			

		論					
		福祉レクリエーション支援論	2	1～			
		福祉レクリエーション演習A	1	1～			
		福祉レクリエーション演習B	1	1～			
		福祉レクリエーション実習指導	2	3～	○抽選・選考科目		
		福祉レクリエーション実習	2	3～	○抽選・選考科目		
		スクールソーシャルワーク論	2	2～			
		スクールソーシャルワーク演習	1	3～	○抽選・選考科目 ○「スクールソーシャルワーク論」「子ども家庭福祉論」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		スクールソーシャルワーク実習指導	2	4～	○抽選・選考科目 ○「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「スクールソーシャルワーク演習」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		スクールソーシャルワーク実習	2	4～	○抽選・選考科目 ○「ソーシャルワーク		

					実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「スクールソーシャルワーク演習」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		司法福祉論	2	2～			
		こころとからだ	2	1～			
		キリスト教史A	2	2～			
		キリスト教史B	2	2～			
		ソーシャルデザイン特講	2～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		社会調査入門	2	1～			
		社会運動論	2	1～			
		市民社会とメディア	2	1～			
		現代社会論	4	1～			
		社会心理学	2	1～			
		メディア・コミュニケーション論	2	1～			
		生活文化論	2	1～			
		ライフスタイルの社会学	2	1～			
		家族社会学	2	1～			
		現代家族論	2	1～			
		ジェンダー論	2	1～			
		働き方とジェンダー	2	1～			
		都市社会学	2	1～			
		現代都市論	2	1～			
		文化社会学	2	1～			
		モダニティの社会学	2	1～			

		スポーツ社会学	2	1～			
		身体文化論	2	1～			
		教育社会学A	2	1～			
		教育社会学B	2	1～			
		音楽社会学	2	1～			
		コミュニケーション論	2	1～			
		メディア史	2	1～			
		地方財政論Ⅰ	2	2～			
		地方財政論Ⅱ	2	2～			
		地域経済論Ⅰ	2	2～			
		地域経済論Ⅱ	2	2～			
		経営管理論	2	2～			
		経営組織論	2	2～			
合計						124単位以上	

付表4A：経営学部経営学科教育科目履修要領

類別		授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数	
基礎教育科目	建学の精神		—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	6単位以上
	学びの基礎	外国語科目	—	—	付表1(その1)の2参照	4単位	
		リテラシー	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以上	
教養教育科目			—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	学科必修科目	大学生活入門セミナー	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	2単位	64単位以上
	学科選択科目	経営学基礎	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない	62単位以上	
		デジタル技術基礎	2	1のみ			
		会計学基礎	2	1のみ			
		マーケティング基礎	2	1のみ			
		グローバル＆ローカ	2	1のみ			

		ル基礎					
		簿記	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
		プレップセミナーA	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない		
		プレップセミナーB	2	2のみ	○2年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない		
		実践演習	1～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		専門演習	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修		
		エルダー演習A	2	1～			
		エルダー演習B	2	1～			
		エルダー演習C	2	1～			
		エルダー演習D	2	1～			
		中級簿記	4	1～			
		ビジネスコミュニケーション	2	1～			
		経営学総論	4	1～			
		経営管理論	2	2～			
		経営組織論	2	2～			
		経営戦略論	2	2～			
		経営学のための数学	2	1～			
		経営学のための統計	2	2～			
		アントレプレナー論	2	2～			
		経営学史A	2	2～			

		経営学史B	2	2～			
		経営倫理論	2	2～			
		経営史A	2	2～			
		経営史B	2	2～			
		コーポレート・ガバナンス論A	2	2～			
		コーポレート・ガバナンス論B	2	2～			
		コーポレート・ファイナンス(基礎)	2	2～			
		コーポレート・ファイナンス(応用)	2	2～			
		人的資源管理論A	2	2～			
		人的資源管理論B	2	2～			
		生産管理論A	2	2～			
		生産管理論B	2	2～			
		上級簿記A	2	1～			
		上級簿記B	2	1～			
		英文簿記会計	2	1～			
		財務会計論(基礎)	2	2～			
		財務会計論(応用)	2	2～			
		税務会計論	2	2～			
		税務戦略論	2	2～			
		監査論	2	2～			
		国際会計論	2	2～			
		会計史	2	2～			
		管理会計A	2	2～			
		管理会計B	2	2～			
		原価計算システム	2	2～			
		コスト・マネジメン	2	2～			

		ト					
		経営分析	2	2～			
		ビジネス情報利用A	2	1～	○抽選・選考科目		
		ビジネス情報利用B	2	1～	○抽選・選考科目		
		プログラミング	2	2～	○抽選・選考科目		
		マルチメディア実習	2	2～	○抽選・選考科目		
		データサイエンス入門	2	1～			
		デジタルマーケティング	2	2～			
		データサイエンス演習Ⅰ	2	2～			
		データサイエンス演習Ⅱ	2	2～			
		マーケティングリサーチ	2	2～			
		消費者行動論	2	2～			
		グローバル・マーケティング	2	2～			
		ブランド論	2	2～			
		流通論	2	2～			
		ネットビジネス	2	2～			
		データ経営	2	2～			
		経営情報とサプライチェーンマネジメント	2	2～			
		デジタル技術とビジネス変革	2	2～			
		戦略的ビジネスコミュニケーション	2	1～			

		ロジカル英語コミュニケーション	2	1～			
		ビジネス英語プレゼンテーション	2	1～			
		グローバルビジネス英語A	2	1～			
		グローバルビジネス英語B	2	1～			
		ドイツの文化A	2	1～			
		ドイツの文化B	2	1～			
		国際経営論A	2	2～			
		国際経営論B	2	2～			
		異文化間コミュニケーション論A	2	2～			
		異文化間コミュニケーション論B	2	2～			
		地域ビジネス入門	2	1のみ			
		地域ビジネス論	2	2～			
		食農ビジネスの理論と実践Ⅰ	2	2～			
		食農ビジネスの理論と実践Ⅱ	2	2～			
		社会ビジネスの理論と実践Ⅰ	2	2～			
		社会ビジネスの理論と実践Ⅱ	2	2～			
		観光ビジネスの理論と実践Ⅰ	2	2～			
		観光ビジネスの理論と実践Ⅱ	2	2～			

		教育経営学	2	2～			
		図書館経営論	2	2～	○抽選・選考科目		
		博物館経営論	2	2～			
		証券論	4	2～			
		保険論	2	2～			
		銀行論Ⅰ	2	2～			
		銀行論Ⅱ	2	2～			
		金融論Ⅰ	2	2～			
		金融論Ⅱ	2	2～			
		国際金融論	2	2～			
		中小企業論Ⅰ	2	2～			
		中小企業論Ⅱ	2	2～			
		国際経済論Ⅰ	2	2～			
		国際経済論Ⅱ	2	2～			
		アジア産業論Ⅰ	2	2～			
		アジア産業論Ⅱ	2	2～			
		中国経済論Ⅰ	2	2～			
		中国経済論Ⅱ	2	2～			
		地域経済論Ⅰ	2	2～			
		地域経済論Ⅱ	2	2～			
		税法A	2	2～			
		税法B	2	2～			
		会社法A	2	3～			
		会社法B	2	3～			
		手形法小切手法	2	3～			
		支払決済法	2	3～			
		商取引法Ⅰ	2	2～			
		商取引法Ⅱ	2	2～			
		外国書講読	4	2～	○抽選・選考科目 ○経営学部経営学科および他学		

					部・学科提供科目の中から1科目のみ履修可		
		経営学特講	1～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		環太平洋圏経営研究A	2	4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない		
		環太平洋圏経営研究B	2	4のみ			
		経営学特別講義	2～4	2～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
合計						124単位以上	

付表4B：ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科教育科目履修要領

類別	授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数
ビジネスデザイン演習	ビジネスデザイン演習Ⅰa	2	3～	○予備登録必要・再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	8単位
	ビジネスデザイン演習Ⅰb	2	3～	○予備登録必要・再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	
	ビジネスデザイン演習Ⅱa	2	4～	○予備登録必要・再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	
	ビジネスデザイン演習Ⅱb	2	4～	○予備登録必要・再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	
ビジネスデザイン実践	PBL入門Ⅰ	4	1～	○指定されたクラスを履修	16単位
	PBL入門Ⅱ	4	1～	○指定されたクラスを履修	
	PBL応用Ⅰ	4	2～	○指定されたクラスを履修	
	PBL応用Ⅱ	4	3～	○指定されたクラスを履修	

ビジネスデザイン思考	ビジネス基礎	2	1～	○指定されたクラスを履修	16単位	16単位
	ビジネスリーダーシップ	2	1～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネスモデル	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネスモデル演習	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	問題解決法	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	ロジカルシンキング	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	倫理・哲学	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	デザインシンキング	2	1～	○指定されたクラスを履修		
ビジネス理論・知識	ITリテラシー	2	1～	○指定されたクラスを履修	28単位以上	(ビジネス創造コース)34単位 (情報テクノロジーコース)44単位以上
	プレゼンテーション	2	1～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネス英語基礎	2	1～	○指定されたクラスを履修		
	マーケティング	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	テクノロジーとイノベーション	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	起業とファイナンス	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	組織デザインと人事管理	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	アカウンティング	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネス英語応用	2	2～	○指定されたクラスを履修		
	グローバルビジネス	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	地域政策論	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	アントレプレナーシップ	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネスの社会性	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	プロジェクトマネジメント	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	ビジネスライティング	2	3～	○指定されたクラスを履修		
	経営戦略	2	3～	○指定されたクラスを履修		

	データ収集・分析	2	2～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修	(ビジネス創造コース)0単位以上(情報テクノロジーコース)6単位以上	
	プログラミング	2	2～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	データサイエンス応用	2	2～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	マーケティング分析	2	2～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	プログラム開発	2	2～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	仕事で使う数学	2	1～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修	(ビジネス創造コース)2単位以上(情報テクノロジーコース)4単位以上	
	統計・データ分析	2	1～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	アプリ開発	2	1～	○情報テクノロジーコースは指定されたクラスを履修		
	データサイエンス入門	2	1～	○指定されたクラスを履修		
ドメイン	食ビジネスA	2	1～	○指定されたクラスを履修	8単位	(ビジ

	農ビジネス	2	1～	○指定されたクラスを履修		ネス創造コース)30単位(情報テクノロジーコース)20単位以上
	福祉・医療・教育ビジネス	2	1～	○指定されたクラスを履修		
	ITビジネス	2	1～	○指定されたクラスを履修		
	食ビジネスB	2	2～	○ビジネス創造コースは指定されたクラスを履修	(ビジネス創造コース)4単位以上(情報テクノロジーコース)0単位以上	
	健康・スポーツビジネス	2	2～	○ビジネス創造コースは指定されたクラスを履修		
	アパレル・住居ビジネス	2	2～	○ビジネス創造コースは指定されたクラスを履修		
	まちづくり・観光ビジネス	2	2～	○ビジネス創造コースは指定されたクラスを履修		
	ファミリー企業経営	2	2～		4単位以上	
	ベンチャー企業経営	2	3～			
	中小企業論	2	2～			
	流通業研究	2	3～			
	フードシステム論	2	2～		8単位以上	
	高齢者と介護	2	2～			
	都市ビジネス	2	2～			
	食文化論	2	3～			
	農産物市場論	2	3～			
	食品産業論	2	3～			
	地域とボランティア	2	3～			

教養・文化	小説・詩・俳句	2	1～		4単位以上	(ビジネス創造コース)16単位(情報テクノロジーコース)12単位以上
	イラスト・絵画	2	1～			
	将棋・囲碁	2	1～			
	華道・茶道の心	2	1～			
	日本を知る	2	1～			
	大阪を知る	2	1～			
	教養文化科目A特講	2	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
	映像・メディア	2	1～		6単位以上	
	演劇・朗読	2	1～			
	政治・経済のニュース	2	1～			
	モチベーションとストレスケア	2	1～			
	環境とビジネス	2	1～			
	バイオ・農林水産	2	1～			
	教養文化科目B特講	2	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
	世界の宗教・人権	2	1～	○指定されたクラスを履修	2単位	
	海外研修	1～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	0単位	
	国内研修	1～4	1～			
学外プロジェクト	学外プロジェクト	2	2～	○指定されたクラスを履修	4単位	
	フィールドワーク	2	3～	○指定されたクラスを履修		
合計					124単位以上	

付表5：国際教養学部英語・国際文化学科教育科目履修要領

類別	授業科目	単位	履修年次	コース別必修科目(●) 基幹言語科目選択必修(△) 学科選択科目選	備考	卒業必要単位数

					択必修(○)					
					英語プロフェッショナルコース	日本・東アジアコミュニケーションコース	グローバル共生コース			
基礎教育科目	建学の精神		—	—	—	—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	10単位以上
	学びの基礎	外国語科目	—	—	—	—	—	付表1(その1)の2参照	8単位	
		リテラシー	—	—	—	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以上	
教養教育科目			—	—	—	—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	基幹言語科目	ドイツ語Ⅰ	2	1～	●	●	●	○抽選・選考科目 ○授業形態はa・bの1週2講時の授業で、単位認定はa・b一括で認定される ○入学時に6言語の中から1言語を選択しなければならない ○Ⅰ・Ⅱは原則として1年次に指定さ	(英語プロフェッショナルコース)●から12単位(日本・東アジアコミュ	70単位以上各自の所属するコースの必修科目および選択必修科目の要件を満た
		フランス語Ⅰ	2	1～	●	●	●			
		スペイン語Ⅰ	2	1～	●	●	●			
		イタリア語Ⅰ	2	1～	●	●	●			
		中国語Ⅰ	2	1～	●	●	●			
		韓国語Ⅰ	2	1～	●	●	●			
		ドイツ語Ⅱ	2	1～	●	●	●			
		フランス語Ⅱ	2	1～	●	●	●			
		スペイン語Ⅱ	2	1～	●	●	●			
		イタリア語Ⅱ	2	1～	●	●	●			
		中国語Ⅱ	2	1～	●	●	●			
		韓国語Ⅱ	2	1～	●	●	●			

		ドイツ語Ⅲ	2	2～		△	△	れたクラスを履修 ○同一言語をⅠから履修しなければならない ○Ⅰ・Ⅱを修得した者のみ、別の言語を選択できる (日本・東アジアコミュニケーションコースおよびグローバル共生コース) ○Ⅲ・Ⅳの履修に際しては、原則として2年次に指定されたクラスを履修	ニケーションコースおよびグローバル共生コース) ●から4単位、△から4単位	していれば、それを超える単位は学科教育科目(基幹言語科目および学科選択科目)のどの科目を履修して修得してもよい
		フランス語Ⅲ	2	2～		△	△			
		スペイン語Ⅲ	2	2～		△	△			
		イタリア語Ⅲ	2	2～		△	△			
		中国語Ⅲ	2	2～		△	△			
		韓国語Ⅲ	2	2～		△	△			
		ドイツ語Ⅳ	2	2～		△	△			
		フランス語Ⅳ	2	2～		△	△			
		スペイン語Ⅳ	2	2～		△	△			
		イタリア語Ⅳ	2	2～		△	△			
		中国語Ⅳ	2	2～		△	△			
		韓国語Ⅳ	2	2～		△	△			
		日本語Ⅰa	1	1～	●	●	●	○外国人留学生は日本語Ⅰa・b、Ⅱa・b、Ⅲa・b、Ⅳa・bを履修しなければならない ○帰国生は原則として日本語Ⅰa・b、Ⅱa・b、Ⅲa・b、Ⅳa・bを履修することが望ましい ※ただし、特に認められた場合は他の言語に変更で		
		日本語Ⅰb	1	1～	●	●	●			
		日本語Ⅱa	1	1～	●	●	●			
		日本語Ⅱb	1	1～	●	●	●			
		日本語Ⅲa	1	2～		△	△			
		日本語Ⅲb	1	2～		△	△			
		日本語Ⅳa	1	2～		△	△			
		日本語Ⅳb	1	2～		△	△			

								きる ○Ⅰa・b、Ⅱa・bは1年次に指定されたクラスを履修 ○Ⅲa・b、Ⅳa・bは2年次に指定されたクラスを履修 ○抽選・選考科目		
		中級英語Ra	1	2～	●	△	△	○抽選・選考科目(英語プロフェッショナルコース) ○2年次に指定されたクラスを履修(日本・東アジアコミュニケーションコースおよびグローバル共生コース) ○中級英語の履修に際しては、2年次に指定されたクラスを履修		
		中級英語Rb	1	2～	●	△	△			
		中級英語OCa	1	2～	●	△	△			
		中級英語OCb	1	2～	●	△	△			
		中級英語La	1	2～	●	△	△			
		中級英語Lb	1	2～	●	△	△			
		中級英語Wa	1	2～	●	△	△			
		中級英語Wb	1	2～	●	△	△			
	学科	大学入門セミナー	2	1のみ				○1年次に指定され	(英語	

	選択科目	Ⅰ						たクラスを履修 ○再履修できない	プロフェッショナルコース） ○から28単位（日本・東アジアコミュニケーションコースおよびグローバル共生コース） ○から32単位
		大学入門セミナーⅡ	2	1のみ					
		英語留学準備講座	1	1～				○抽選・選考科目 ○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		コミュニカティブ英文法A	2	1～					
		コミュニカティブ英文法B	2	1～					
		コース基礎演習Ⅰ	2	2のみ	○	○	○	○2年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない ※英語Sクラスに所属する学生は、所属するコースの「コース基礎演習Ⅰ・Ⅱ」に加えて、「コース基礎演習Ⅰ・Ⅱ(英語Sクラス)」のいずれかを履修	
		コース基礎演習Ⅱ	2	2のみ	○	○	○		
		演習	8	3・4のみ	○	○	○	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修	
		演習S	4	4のみ	○	○	○	○抽選・選考科目	

								○再履修できない ○「演習」を履修登録したら、「演習S」を履修できない		
		海外研修	1～4	1～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		国内研修	1～4	1～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		海外フィールドワーク	2～4	2～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		グローバル体験セミナー	2～4	2～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		多文化共生セミナー	2	2～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		異文化間コミュニケーション論A	2	2～	○	○	○			
		異文化間コミュニケーション論B	2	2～	○	○	○			
		学科特殊講義	2～4	2～	○	○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可 ○副題により1年次から履修可		
		上級英語R	2	2～	○			○抽選・選考科目		
		上級英語OC	2	2～	○			○抽選・選考科目		

		上級英語L	2	2～	○			○抽選・選考科目		
		上級英語W	2	2～	○			○抽選・選考科目		
		PBL English	2～4	2～	○			○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		メディア英語A	2	2～	○			○抽選・選考科目		
		メディア英語B	2	2～	○			○抽選・選考科目		
		ビジネス英語A	2	2～	○					
		ビジネス英語B	2	2～	○					
		グローバルビジネス英語A	2	2～	○					
		グローバルビジネス英語B	2	2～	○					
		観光英語A	2	2～	○					
		観光英語B	2	2～	○					
		児童英語A	2	2～	○					
		児童英語B	2	2～	○					
		資格英語	1	2～	○			○抽選・選考科目 ○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		TOEIC英語研究	2	2～	○			○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		英語ワークショップA	2	2～	○					
		英語ワークショップB	2	2～	○					
		英語ワークショップC	2	2～	○					

		英語ワークショップD	2	2～	○					
		英語学概論A	2	2～	○					
		英語学概論B	2	2～	○					
		英語の音声A	2	2～	○					
		英語の音声B	2	2～	○					
		英語の文法A	2	2～	○					
		英語の文法B	2	2～	○					
		英語の意味A	2	2～	○					
		英語の意味B	2	2～	○					
		英語の歴史A	2	2～	○					
		英語の歴史B	2	2～	○					
		言語学概論A	2	2～	○					
		言語学概論B	2	2～	○					
		応用言語学概論A	2	2～	○					
		応用言語学概論B	2	2～	○					
		応用言語学研究A	2	2～	○					
		応用言語学研究B	2	2～	○					
		言語と社会A	2	2～	○					
		言語と社会B	2	2～	○					
		言語と心理A	2	2～	○					
		言語と心理B	2	2～	○					
		言語表現論A	2	2～	○					
		言語表現論B	2	2～	○					
		東アジアの文化交流Ⅰ	2	2～		○				
		東アジアの文化交流Ⅱ	2	2～		○				
		アジア文化研究	2～4	2～		○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複		

								数履修可		
		アジア文化史A	2	2～		○	○			
		アジア文化史B	2	2～		○	○			
		中国経済論Ⅰ	2	2～		○				
		中国経済論Ⅱ	2	2～		○				
		日本文化研究	2～4	2～		○		○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		Japanese Studies	2～4	2～		○		○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		日本文化論	2	2～		○				
		日本文化へのアプローチ	2	2～		○				
		日本文化史A	2	2～		○				
		日本文化史B	2	2～		○				
		日本近代史Ⅰ	2	2～		○				
		日本近代史Ⅱ	2	2～		○				
		日本語学概論	4	2～	○	○				
		日本語文法論	4	2～		○				
		日本語教授法の基礎A	2	2～		○				
		日本語教授法の基礎B	2	2～		○		○「日本語教授法の基礎A」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		日本語教材・教具論A	2	2～		○				
		日本語教材・教具論B	2	2～		○		○「日本語教材・教具論A」の単位を		

								すでに修得した者のみ履修可		
		日本語教授法演習	4	3～		○		○「日本語教授法の基礎A」「日本語教授法の基礎B」「日本語教材・教具論A」「日本語教材・教具論B」の単位をすでに修得した者のみ履修可		
		海外日本語教育実習	4	3～		○				
		語彙・意味論	2	2～		○				
		文字・表記論	2	2～		○				
		日本語の音声	2	2～		○				
		社会言語学(方言・敬意表現)	2	2～		○				
		日本語教育事情	2	1～		○				
		年少者日本語教育	2	2～		○				
		文化人類学A	2	2～		○	○			
		文化人類学B	2	2～		○	○			
		比較文化研究	2～4	2～		○	○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		総合人間学A	2	2～		○	○			
		総合人間学B	2	2～		○	○			
		博物館資料論	2	2～		○				
		博物館資料保存論	2	2～		○				
		博物館展示論	2	2～		○				

		博物館情報・メディア論	2	2～		○				
		科学技術史	4	2～		○				
		考古学概論A	2	2～		○				
		考古学概論B	2	2～		○				
		民俗学A	2	2～		○				
		民俗学B	2	2～		○				
		ヨーロッパ文化研究	2～4	2～			○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		イギリス文化研究	2～4	2～			○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		アメリカ文化研究	2～4	2～			○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		ドイツの文化A	2	2～			○			
		ドイツの文化B	2	2～			○			
		英語文学概論A	2	2～			○			
		英語文学概論B	2	2～			○			
		西洋文化史A	2	2～			○			
		西洋文化史B	2	2～			○			
		キリスト教史A	2	2～			○			
		キリスト教史B	2	2～			○			
		キリスト教音楽Ⅰ	2	2～			○	○抽選・選考科目		
		キリスト教音楽Ⅱ	2	2～			○	○抽選・選考科目		
		西洋思想史A	2	2～			○			
		西洋思想史B	2	2～			○			
		メディアリテラシー論A	2	2～			○			

		メディアリテラシー論B	2	2～			○			
		メディアアーカイブ実習	4	2～			○	○抽選・選考科目		
		世界のメディアA	2	2～			○			
		世界のメディアB	2	2～			○			
		メディア文化特論	2～4	2～			○	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可		
		映像メディア論A	2	2～			○			
		映像メディア論B	2	2～			○			
		映像制作実習	4	2～			○	○抽選・選考科目		
		音楽社会学	2	2～			○			
		情報社会論	2	2～			○			
		デジタル・メディア論	2	2～			○			
		文化社会学	2	2～			○			
		モダニティの社会学	2	2～			○			
		社会心理学	2	2～			○			
		メディア・コミュニケーション論	2	2～			○			
		社会運動論	2	2～			○			
		市民社会とメディア	2	2～			○			
		メディア制作実習	2～4	2～			○			
合計									124単位以上	

付表6：法学部法律学科教育科目履修要領

類別	授業科目	単位	履修年次	備考	卒業必要単位数

基礎教育科目	共通基礎科目	建学の精神	—	—	付表1(その1)の1参照	2単位以上	6単位以上
	学びの基礎	外国語科目	—	—	付表1(その1)の2参照	4単位	
		リテラシー	—	—	付表1(その1)の3参照	0単位以上	
教養教育科目			—	—	付表1(その2)参照	16単位以上	
学科教育科目	学科選択科目	憲法入門	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	70単位以上	
		民法入門	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
		刑法入門	2	1～	○1年次に指定されたクラスを履修		
		法職オリエンテーション	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修		
		働くことと法知識	2	1～			
		基礎演習A	2	1のみ	○1年次に指定されたクラスを履修 ○再履修できない		
		基礎演習B	2	1のみ			
		演習2A	2	2のみ	○抽選・選考科目		
		演習2B	2	2のみ	○抽選・選考科目		
		法職ブラッシュアップ講座	2	3のみ			
		公務員英語Ⅰ	2	2～	○抽選・選考科目		
		公務員英語Ⅱ	2	2～	○抽選・選考科目		
		ビジネス基礎英語Ⅰ	2	2～	○抽選・選考科目		
		ビジネス基礎英語Ⅱ	2	2～	○抽選・選考科目		
		専門演習A	4	2のみ	○抽選・選考科目		

					○再履修できない ○同一教員・テーマで2・3・4年次継続履修	
		専門演習B	4	3のみ	○専門演習Bは専門演習Aの単位をすでに修得した者のみ履修可 ○専門演習Cは専門演習Bの単位をすでに修得した者のみ履修可	
		専門演習C	4	4のみ		
		演習	8	3・4のみ	○抽選・選考科目 ○再履修できない ○同一教員・テーマで3・4年次継続履修 ○専門演習Aを履修登録したら、演習を履修できない	
		憲法・基本的人権	4	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	
		憲法・統治機構A	2	2～		
		憲法・統治機構B	2	2～		
		民法Ⅰ(総則)	4	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	
		民法Ⅱ(物権)	2	2～		
		民法Ⅱ(担保物権)	2	2～	○「民法Ⅱ(物権)」の単位をすでに修得した者のみ履修可	
		民法Ⅲ(債権総論A)	2	2～		
		民法Ⅲ(債権総論B)	2	2～		
		民法Ⅳ(契約)	2	3～		

		民法Ⅳ(不法行為)	2	3～		
		民法Ⅴ(親族)	2	2～		
		民法Ⅴ(相続)	2	2～		
		刑法総論	4	1～	○1年次に指定されたクラスを履修	
		刑法各論A	2	2～		
		刑法各論B	2	2～		
		企業法入門A	2	2～		
		企業法入門B	2	2～		
		会社法A	2	3～		
		会社法B	2	3～		
		手形法小切手法	2	3～		
		支払決済法	2	3～		
		商取引法Ⅰ	2	2～		
		商取引法Ⅱ	2	2～		
		民事訴訟法A	2	2～		
		民事訴訟法B	2	2～	○「民事訴訟法A」の単位をすでに修得した者のみ履修可	
		刑事訴訟法A	2	2～		
		刑事訴訟法B	2	2～	○「刑事訴訟法A」の単位をすでに修得した者のみ履修可	
		行政法総論A	2	2～		
		行政法総論B	2	2～		
		行政法各論A	2	3～		
		行政法各論B	2	3～		
		国際法A	2	2～		
		国際法B	2	2～		
		経済法A	2	2～		

		経済法B	2	2～		
		知的財産法A	2	2～		
		知的財産法B	2	2～		
		労働法A	2	2～		
		労働法B	2	2～		
		社会保障法A	2	3～		
		社会保障法B	2	3～		
		ジェンダー法学A	2	2～		
		ジェンダー法学B	2	2～		
		民事執行法	2	3～		
		倒産法	2	3～		
		法哲学A	2	2～		
		法哲学B	2	2～		
		論理学A	2	2～		
		論理学B	2	2～		
		日本法制史A	2	2～		
		日本法制史B	2	2～		
		西洋法制史A	2	2～		
		西洋法制史B	2	2～		
		外国法A	2	3～		
		外国法B	2	3～		
		刑事政策	2	2～		
		行政学A	2	2～		
		行政学B	2	2～		
		政治学概論	2	1～		
		国際関係論A	2	2～		
		国際関係論B	2	2～	○「国際関係論A」の単位をすでに修得した者のみ履修可	

		国際政治史A	2	2～		
		国際政治史B	2	2～		
		国際機構論A	2	2～		
		国際機構論B	2	2～		
		国際政治事情研究A	2	2～		
		国際政治事情研究B	2	2～		
		地域研究ＩA	2	2～		
		地域研究ＩB	2	2～		
		地域研究ⅡA	2	2～		
		地域研究ⅡB	2	2～		
		法情報学	4	2～		
		税法A	2	2～		
		税法B	2	2～		
		法学特講	1～4	1～	○副題(テーマ)が異なる場合は複数履修可	
		法職インターンシップ	2	3～		
		外国書講読A	1～4	2～	○抽選・選考科目	
		外国書講読B	1～4	2～	○抽選・選考科目	
		ミクロ経済学	4	2～		
		マクロ経済学	4	2～		
		財政学Ⅰ	2	3～		
		財政学Ⅱ	2	3～		
		地方財政論Ⅰ	2	3～		
		地方財政論Ⅱ	2	3～		
		公共経済論Ⅰ	2	3～		
		公共経済論Ⅱ	2	3～		
合計						124単位以上

桃山学院大学データサイエンス教育運営会議内規

2024 年（令和 6 年）4 月 1 日施行

（設置）
第 1 条　桃山学院大学共通教育機構規程第 8 条第 1 項に基づき、共通教育機構の作業部会として、データサイエンス教育運営会議（以下、会議）を置く。

（目的）
第 2 条　会議は、本学におけるデータサイエンス教育を適切かつ円滑に運営し、その充実・向上に資することを目的とする。

（審議事項・業務）
第 3 条　会議は前条に掲げる目的を達成するため、次の各号の審議および業務を行う。
（1）データサイエンス教育の開講および運営に関すること
（2）データサイエンス教育の自己点検・評価に関すること
（3）データサイエンス教育の方法等の調査・検討に関すること
（4）データサイエンス教育の人材育成の推進に関すること
（5）データサイエンス教育の資格、認定制度等の検討および運営に関すること
（6）その他、前条の目的の達成のために必要なこと

（組織）
第 4 条　会議は次の各号に掲げる者を構成員とする。
（1）共通教育機構長が指名する議長
（2）第 3 条の各号に掲げる業務に従事する専任教員および共通教育機構契約教員
（3）その他、議長が必要と認めた者

（委嘱および任期）
第 5 条　前条の構成員の任期は 1 年とし再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）
第 6 条　議長は会議を招集し、その会議の議長となる。
2　議長の指名により、その他の構成員が職務を代行することができる。
3　会議は構成員の過半数の出席をもって成立する。
4　会議の議決は、出席構成員の過半数をもって決定する。ただし、可否同数の場合には

議長の決するところによる。
5　議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（事務所管）
第 7 条　会議の事務は、共通教育機構事務課の所管とする。

（細則）
第 8 条　この内規に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会議が別に定める。

（改廃）
第 9 条　この内規の改廃は、会議の議を経て、共通教育機構会議が行う。

付則
この内規は、2024 年（令和 6 年）4 月 1 日から施行する。

桃山学院大学データサイエンス教育運営会議内規

2024 年（令和 6 年）4 月 1 日施行

（設置）
第 1 条　桃山学院大学共通教育機構規程第 8 条第 1 項に基づき、共通教育機構の作業部会として、データサイエンス教育運営会議（以下、会議）を置く。

（目的）
第 2 条　会議は、本学におけるデータサイエンス教育を適切かつ円滑に運営し、その充実・向上に資することを目的とする。

（審議事項・業務）
第 3 条　会議は前条に掲げる目的を達成するため、次の各号の審議および業務を行う。
（1）データサイエンス教育の開講および運営に関すること
（2）データサイエンス教育の自己点検・評価に関すること
（3）データサイエンス教育の方法等の調査・検討に関すること
（4）データサイエンス教育の人材育成の推進に関すること
（5）データサイエンス教育の資格、認定制度等の検討および運営に関すること
（6）その他、前条の目的の達成のために必要なこと

（組織）
第 4 条　会議は次の各号に掲げる者を構成員とする。
（1）共通教育機構長が指名する議長
（2）第 3 条の各号に掲げる業務に従事する専任教員および共通教育機構契約教員
（3）その他、議長が必要と認めた者

（委嘱および任期）
第 5 条　前条の構成員の任期は 1 年とし再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）
第 6 条　議長は会議を招集し、その会議の議長となる。
2　議長の指名により、その他の構成員が職務を代行することができる。
3　会議は構成員の過半数の出席をもって成立する。
4　会議の議決は、出席構成員の過半数をもって決定する。ただし、可否同数の場合には

議長の決するところによる。
5　議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（事務所管）
第 7 条　会議の事務は、共通教育機構事務課の所管とする。

（細則）
第 8 条　この内規に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会議が別に定める。

（改廃）
第 9 条　この内規の改廃は、会議の議を経て、共通教育機構会議が行う。

付則
この内規は、2024 年（令和 6 年）4 月 1 日から施行する。

大学等名	**桃山学院大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和６年度

取組概要

プログラムの目的

「数理・データサイエンス・AI」について、社会における様々な分野におけるデータの利活用例を紹介し、日常生活のみならずビジネス実務において応用できる基礎的能力の修得を目指します。さらに、調査・分析における注意、情報倫理やセキュリティなども学び、データを正しく活用できる実践型データサイエンティストを育成します。

「データサイエンス基礎（2単位）」※

※ビジネスデザイン学部は「データサイエンス入門」

全学共通の基礎教育科目区
「学びの基礎（リテラシー）」に配置

身につけられる能力

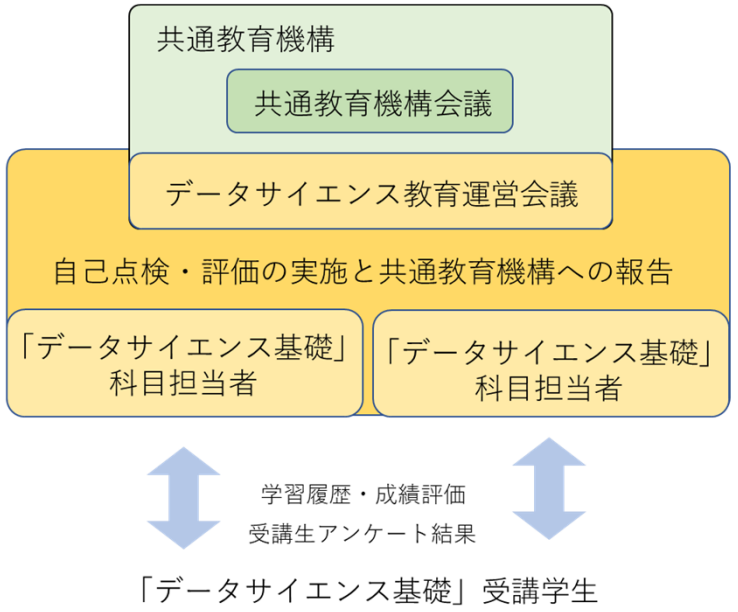
実践型データサイエンティストに求められる能力のうち、以下の基礎的理解ができるようになります。
◆社会におけるデータサイエンスの利活用の現状を正しく把握することができる
◆データサイエンスの基礎知識を身につけ，それらを適切な場面で活用することができる
◆課題解決のために適切にデータを取得して，分析・説明するための基礎的な能力を身につけることができる

修了要件

「データサイエンス基礎」の**2単位を修得する**こと。

データサイエンス教育運営会議

本学における「データサイエンス教育」を適切かつ円滑に運営し、その充実・向上に資することを目的として共通教育機構の下に「データサイエンス教育運営会議」を設置している。会議は「データサイエンス教育」科目の開講、運営の他、その目的の達成度、運営の適切性を自己点検・評価する。



大学等名	**桃山学院大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和６年度

その他補足資料

令和５年度の実績

「データサイエンス基礎」は**全学共通科目**として令和５年度秋学期より開講し、**1年次からの初修科目**として履修するように推奨している。また、本科目を**完全なオンデマンド科目として開講**し、時間割の制約を受けずに**自律的学習**できるように開講している。更に、本科目を**教育職員養成課程**の「基礎資格に関する科目」の選択科目として位置づけ、課程履修生の受講を促している。履修者数実績は245名（定員比4%）

キーワード

◆全学共通 ◆1年次から履修 ◆完全オンデマンド（自律的学習） ◆教職課程科目に指定

令和6年度以降

令和６年度については倍増以上の定員比10%（650名）を目指す。また、令和６年度入学生向けカリキュラムから日本語教員養成課程の選択必修科目として位置づけ受講を促している。履修者数を増やすための計画は以下のとおり
令和７年度：本学のデータサイエンティスト養成プログラム「SDP(スーパー・データサイエンス・プログラム)」の参加学生に対し、履修推奨を行う＜ 15%（1,000名）＞。
令和８年度：理系学部設置を予定（設置申請構想中）しており、理系学部新入生への履修推奨を行う＜ 20%（1,300名） ＞。
令和９年度：前年度にプログラムの完成年度となるため、卒業生をロールモデルとする周知を行い履修推奨を行う＜25%（1,650名）＞